

第4章

市街地住民による水辺の景観評価

4.1 本章の目的および調査手法

4.1.1 目的

前章では、中学生と保護者の水辺に対する意識や利用行動について、分析を行った。その中で、生徒は水辺に対する充足度が保護者よりも高いといえるが、水辺への関心自体が低い生徒も多くいること、保護者においては「もっと水辺とふれあいたい」かつ「もっと良い水辺があればよい」と感じている人の割合が高く、現状の水辺に対する充足度が必ずしも高いとは言えないことなどが明らかにされた。しかし、個別の水辺が持つ意識への影響力などの、とくに質に対する充足度を形成している要因について十分に解明することはできなかった。

そこで、充足度を向上させるような水辺整備のあり方を考察するために、市街地に現存する水辺に対する住民の意識をより詳細に分析することが必要だと考えられる。現状の水辺を住民がどのように評価しているのかを追究することによって、前章で示されたような充足度や利用行動との関連性を考察することが可能になると考えられる。

以上のことから、前章と同様に中学生とその保護者を対象として、市街地の主に都市公園にある水辺に対する景観評価を調査することにした。そして、既存の水辺が持つ性質とそれに対する評価との関連を分析することにより、対象者らの水辺に対する充足感を満たすような整備のあり方を考察することを本章の目的とした。

4.1.2 SD 法の内容

本調査では、景観評価の手法として SD (Semantic Differential Technique) 法を用いることにした。SD 法は、対となる形容詞を両極とした段階評定尺度を用いた、環境心理の研究や調査では広く用いられている心理評価の測定法である。本来は印象や雰囲気を表す形容詞が用いられるが、心理物理量や自覚症状の項目も、同種の調査では環境心理評価項目として一般的に用いられている⁹⁴⁾。本調査のものは、そのような項目を含んだ広義的な意味での SD 法である。

本調査では表 4-1 に記載した 19 項目を用いた。これらの項目は、SD 法を用いた既往の研究¹⁰⁾⁴¹⁾⁵⁸⁾を参考にしながら選択したものである。水辺のもつアメニティ機能、とくに「水辺の風景を眺める」と「水辺の動植物とふれあうこと」に関連した項目を中心に、各種の利用行動のふさわしさや、水辺に対する充足度と関係する項目を抽出した。

なお、本調査における評価尺度は 5 段階とした。

表 4-1 SD 法に用いた項目と評価尺度

記号	項目	A	B
a	水が	きれいだ	きたない
b	水の流れや動きが	おもしろい	つまらない
c	水が涼しそうに	感じる	感じない
d	水の音が心地よく	きこえる	きこえない
e	水にさわってみたく	なる	ならない
f	リラックスが	できる	できない
g	この水辺は	広い	狭い
h	水辺の雰囲気が	明るい	暗い
i	きちんと整備が	されていそう	されていなさそう
j	水辺が危なそうに	感じない	感じる
k	水の近くまで	行きやすそう	行きにくそう
l	かつこうよい感じが	する	しない
m	水辺の生物が	いそう	いなさそう
n	この水辺は	自然的な感じ	人工的な感じ
o	水辺の風景が	きれいだ	きれいでない
p	休憩するのに	良い場所だ	良くない場所だ
q	水辺の動植物とふれあうのに	良い場所だ	良くない場所だ
r	この水辺が	好きだ	きらいだ
s	家の近くにあればよいと	思う	思わない

※尺度は「A/ややA/どちらともいえない/やや・あまり B/B」の 5 段階。

4.1.3 対象地およびビデオ映像の撮影方法

調査の対象とした水辺は、図 4-1および表 4-2に示した合計 23 地点である。区内の水辺のある公園（都市公園ならびにそれに準ずるもの）すべてと、公園同様に住民に公開されている緑地で水辺のある地点を対象とした。神田川については、区内における河川の様子を代表すると考えられる 3 地点を選定した。また調査で使用した映像から切り出した写真を図 4-2に例示した。各地点の映像は、2003 年 8 月の同じような気象条件のもとデジタルビデオで撮影したものである。1 地点につき 1 分 30 秒程度、地上高 1.5m の固定点からズーム機能は用いずに水辺の全景および近景を録画した。

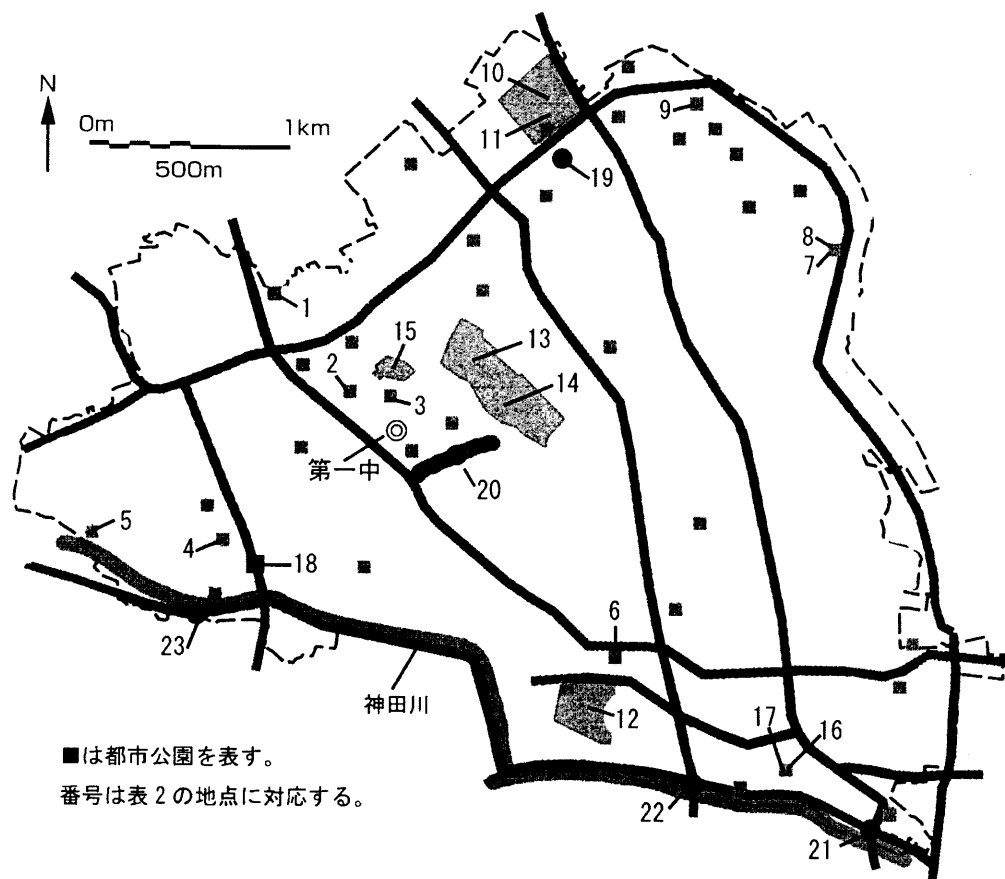
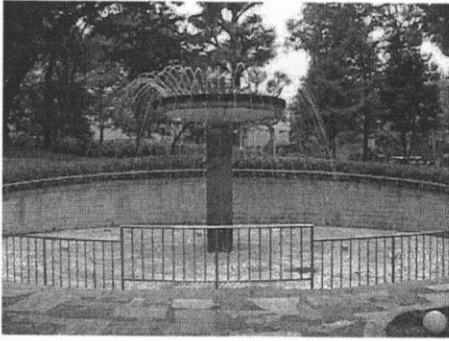


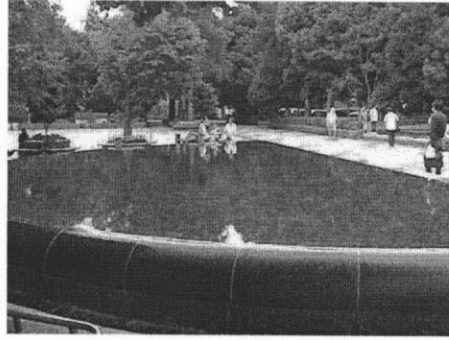
図 4-1 景観評価対象地の地図

表 4-2 景観評価調査の対象とした水辺

番号	水辺のある場所	調査に用いた水辺の映像の様子
1	大塚公園	石畳の中央にある高さ数メートルの柱頭から水が出る噴水。
2	教育の森公園	公園入り口付近の広場にある、水が縁辺から静かにあふれ出る池。中央部から水が湧いている。
3	窪町東公園	やや角度のある溪流を模した流れと、その下流にある徒歩池からなる、石造りの水辺。
4	関口台公園	緑に囲まれた小さめの池。水深は数十センチ程度。
5	新江戸川公園	回泉築山式庭園の中央部にある池。池のすぐそばまで緑が迫っている。
6	礪川公園	駅前の公園の通りに面した位置にある、花壇で囲われた大小の噴水。
7	須藤公園	藤棚のある休憩所の前面に広がる、庭園様式の中規模の池。小さな中島がある。
8		庭園の池へと流れ込む滝。流量はあまりないが、岩肌で高さが10メートル程度ある。
9	神明都電車庫跡公園	一角から水が流れ出る、石造りの徒歩池。
10	六義園	回遊式築山泉水庭園の中央部の大きな池。中央に中島がある。
11		「滝見の茶屋」岩の間から水が流れ出て、泉のようになっている場所。流れは池に続いている。
12	後楽園	回遊式泉水庭園の中央部の大きな池。
13	小石川植物園	園内にある日本庭園の池。
14		園内の湧水が集まってくる池。周辺の一部は草地で、他は木が取り囲んでいる。
15	占春園	横幅が数十メートルにわたる細長い池。樹冠に覆われやや薄暗い。
16	本郷給水所公苑	幅1m程度の小川のような流れとその下流部の石造りの池。
17		池の上に歩行通路が渡されているピオトープ。水生および陸生の植物で囲まれている。
18	音羽児童遊園	高速道路の下に設けられた、浅い石造りの流れおよび小さな徒歩池。
19	文京グリーンコート	公開空地にある、方形で浅い池のような石造りの水景施設。
20	播磨坂さくら並木	傾斜のある遊歩道の脇を流れる、幅が1m程度の浅い石造りの流れ。
21	神田川（聖橋）	上流方向の景観。左右は植生のある傾斜地で、河川（川幅約20m）は数十メートル下を流れている。
22	神田川（水道橋）	上流方向の景観。左右はコンクリートの護岸で、建築物が間近まで迫っている。川幅約20m。
23	神田川（一休橋）	下流方向の景観。左岸は江戸川公園。コンクリート護岸の一部がツタで覆われている。川幅約15m。



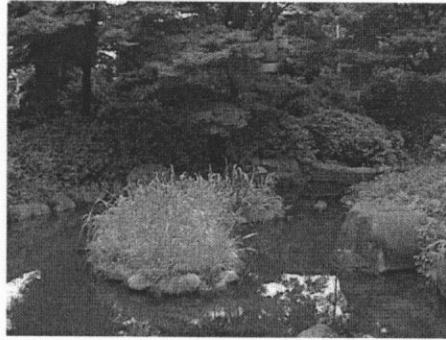
1) 大塚公園の噴水



2) 教育の森公園の池・噴水



3) 窪町東公園の溪流



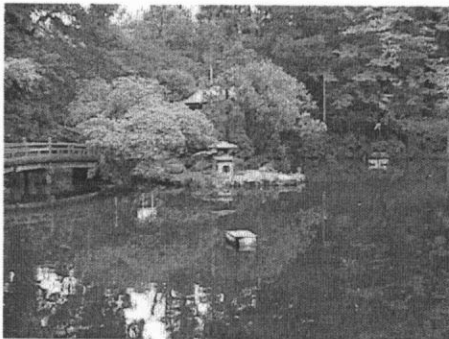
4) 関口台公園の池



5) 新江戸川公園の池



6) 礪川公園の噴水



7) 須藤公園の池

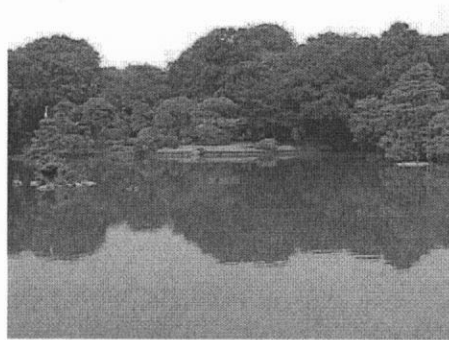


8) 須藤公園の滝

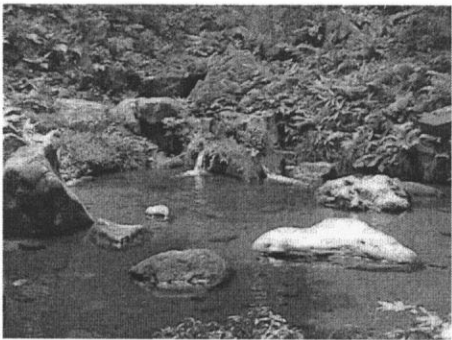
図 4-2 景観評価調査に用いた水辺の画像 (1/3)



9) 神明都電車庫跡公園の徒歩池



10) 六義園の池



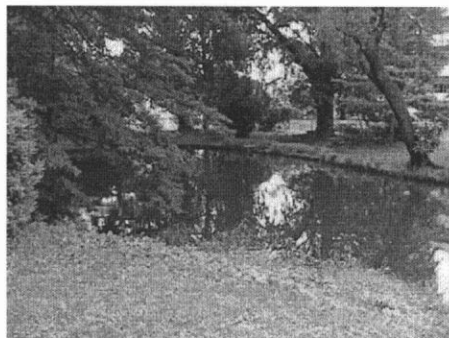
11) 六義園の流れ



12) 小石川後楽園の池



13) 小石川植物園の庭園の池



14) 小石川植物園の池



15) 占春園の池

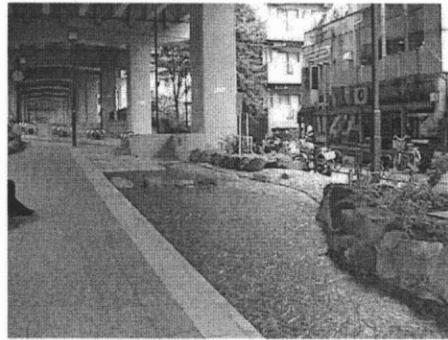


16) 本郷給水所公苑の流れ

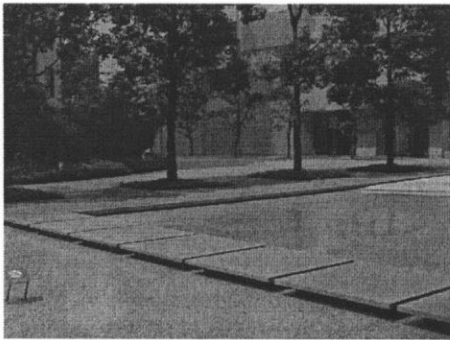
図 4-2 景観評価調査に用いた水辺の画像 (2/3)



17) 本郷給水所公苑のピオトープ



18) 音羽児童遊園の徒歩池



19) 文京グリーンコートでの修景施設



20) 播磨坂さくら並木の流れ



21) 神田川（聖橋より上流方向）



22) 神田川（水道橋より上流方向）



23) 神田川（一休橋より下流方向）

図 4-2 景観評価調査に用いた水辺の画像（3 / 3）

4.1.4 被験者および調査方法

被験者は、文京区の中央部に近い区立第一中学校の生徒 86 名とその保護者 23 名とした。それぞれ一室に集めた被験者らに、プロジェクターを介してスクリーンに映し出した水辺の映像を見せた。そしてそれぞれの映像ごとに、前掲の表 4-1 に示した 19 項目についての評価の回答を求めた。なお、生徒、保護者とも調査に用いた映像および回答用紙は同じである。また、見せる映像の順番ならびに回答用紙における項目の記載順は、表の通りではなく無作為に決定した。

4.1.5 結果の分析法

得られた有効回答（生徒 76 票、保護者 23 票）について、相加平均値による比較の他に、t 検定と対応分析（数量化理論Ⅲ類）を用いた統計的な分析を行った。なお、これらの分析にはパソコン用統計処理ソフト「SPSS 11.0J for Windows」を用いた。

4.2 景観評価調査の結果

4.2.1 水辺の景観評価による得点

SD法における5段階尺度の回答を、前掲の表4-1にあるAの方ほど高い数値として5~1の点数に換算した。そして、各項目についての生徒、保護者それぞれの尺度の平均(以下「得点」と呼ぶ)を求めたところ、表4-3、表4-4のような結果になった。本研究における以下の分析は、この得点を用いて行った。

水辺を個別に見てみると、1(大塚公園の噴水)、3(窪町東公園の流れ)、6(礪川公園の噴水)、8(須藤公園の滝)、11(六義園の泉)、20(播磨坂さくら並木の流れ)などが生徒と保護者ともに多くの項目で得点が高かった。これらの水辺は、特に水そのものの持つ性質(a~e)がよく感じられると認識されており、良好な評価を集めているといえる。

逆に、21, 22, 23(神田川の3地点)は生徒と保護者ともにほとんどの項目で得点が低かった。15(占春園の池)は、mとnは得点が高いものの、それ以外の多くは得点が低いことが、両者ともにいえる。7(須藤公園の池)、10(六義園の池)、12(小石川後楽園の池)、13(小石川植物園の日本庭園の池)は、特に保護者において、g, m, qなどが高くなっている。

項目ごとに得点が上位または下位の水辺を生徒と保護者で比較すると、いずれにおいても5つ前後は重なっていた。2(教育の森公園の池)、4(関口台公園の池)、10などは、生徒よりも保護者の方でより多くの項目で上位に含まれており、得点も高い。一方で、14や18は生徒においては項目の上位にきていることが多いが、保護者においては逆に下位にきていることの方が多い。また、rおよびsの上位の水辺は、a~eにおいても上位である場合が多いが、10や13のようにそうではないものも含まれている。

生徒と保護者の得点について、項目ごとにt検定を行ったところ、b, c, f, i, l, o, p, q, r, sの19項目中10の項目について有意な差があった($p < 0.05$)。これらについては生徒と保護者で水辺の評価の傾向に違いがあるといえる。たとえばpは、上位、下位にかかわらず多くの地点で生徒よりも保護者の得点の方が高くなっており、同じ水辺であっても保護者は生徒より、そこを休憩に向けた場所だと認識あるいは評価しやすい傾向にあると考えられる。f, o, r, sなどについても、これと同じようなことがいえる。

表 4-3 生徒の調査地点ごとの景観評価得点平均

項目 地点	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	q	r	s
1	3.43	3.69	3.60	3.57	3.23	3.26	2.76	3.61	3.77	3.93	3.77	2.99	1.64	1.51	3.13	3.17	2.27	3.43	2.76
2	1.56	2.15	2.11	2.75	1.87	2.04	2.20	2.77	3.20	3.73	3.72	2.01	1.68	1.52	2.39	2.91	1.89	2.41	2.20
3	3.64	3.75	3.93	3.81	3.72	3.51	2.51	3.49	3.55	3.85	3.97	2.92	2.00	2.37	3.33	3.53	2.52	3.59	3.12
4	2.55	2.32	2.38	2.46	2.03	2.56	2.88	2.61	3.09	3.27	3.14	2.70	3.45	3.18	3.11	3.01	2.97	2.64	2.74
5	1.86	1.75	2.23	2.22	1.70	2.62	4.01	2.43	2.89	2.96	2.71	2.48	3.76	3.53	2.90	2.83	2.92	2.61	2.53
6	4.35	4.27	4.31	4.28	4.17	4.11	2.27	4.35	4.57	4.32	4.52	3.73	1.25	1.35	4.13	4.31	2.17	3.93	3.83
7	2.35	2.41	2.78	2.49	2.14	2.93	3.62	2.81	3.23	3.23	2.82	2.76	3.52	2.97	3.23	3.16	2.61	2.82	2.69
8	3.89	4.22	4.19	4.30	3.78	3.82	2.68	3.45	3.17	3.51	3.04	3.62	3.45	3.77	3.85	3.37	3.26	3.74	3.26
9	3.05	2.08	2.64	2.39	2.61	2.46	2.13	3.69	3.62	3.89	3.87	2.27	1.64	1.62	2.59	3.09	2.04	2.76	2.41
10	2.25	2.08	2.36	2.22	2.03	2.77	4.07	2.51	3.21	3.20	2.82	2.50	3.47	3.11	3.17	3.04	2.78	2.68	2.74
11	3.57	3.36	3.71	3.48	3.32	3.57	2.97	3.49	3.24	3.72	3.64	3.00	3.67	3.48	3.68	3.61	3.11	3.49	3.16
12	2.20	2.07	2.73	2.29	1.97	2.85	4.45	2.84	2.84	3.07	2.84	2.53	3.87	3.62	3.03	2.91	2.88	2.71	2.69
13	2.11	2.26	2.39	2.46	1.89	2.91	3.96	2.85	3.37	3.37	3.30	2.68	3.71	3.14	3.43	3.57	3.04	2.89	3.07
14	2.77	2.15	2.83	2.28	2.12	2.62	3.28	2.34	2.70	3.20	3.46	2.20	3.78	3.37	2.70	2.89	3.05	2.71	2.41
15	1.96	1.93	2.36	1.96	1.61	2.12	3.05	1.80	2.20	2.74	2.80	2.01	3.80	3.41	2.41	2.14	2.72	2.56	2.11
16	2.60	2.09	2.39	2.41	2.09	2.40	2.25	2.60	3.09	3.56	3.70	2.35	3.04	2.65	2.87	3.07	2.64	2.49	2.51
17	2.25	2.08	2.51	2.32	1.99	2.63	2.40	2.77	2.97	3.64	2.95	2.47	3.40	3.12	2.91	2.97	2.68	2.83	2.47
18	3.37	3.36	3.39	3.20	3.24	3.12	2.08	3.44	3.71	3.86	3.95	2.62	1.78	1.88	2.96	3.11	2.34	3.20	2.85
19	3.66	2.14	2.81	2.36	2.88	2.86	2.78	3.14	3.73	4.03	3.78	2.89	1.79	1.61	3.00	3.23	2.30	2.85	3.03
20	4.21	4.17	4.17	4.04	4.07	4.00	2.47	4.11	4.31	4.24	4.29	3.51	1.59	1.89	3.83	4.09	2.64	3.96	3.77
21	1.57	2.80	1.97	1.59	1.36	1.42	4.16	2.28	3.08	2.29	1.70	1.95	2.64	1.84	1.76	1.61	1.58	2.22	1.61
22	1.27	1.57	1.51	1.43	1.24	1.35	3.75	1.51	2.25	2.23	1.43	1.71	2.41	1.92	1.41	1.25	1.37	1.59	1.35
23	1.88	1.76	1.83	1.78	1.43	1.63	3.55	1.95	2.51	2.43	1.75	1.82	2.96	2.09	1.70	1.68	1.76	1.84	1.57
平均	2.71	2.63	2.83	2.70	2.46	2.76	3.06	2.91	3.23	3.40	3.22	2.60	2.80	2.56	2.94	2.98	2.50	2.87	2.65

数値の実線下線は各項目における上位5つを、点線下線は同じく下位5つを表す。

表 4-4 保護者の調査地点ごとの景観評価得点平均

項目 地点	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	q	r	s
1	2.95	3.64	3.68	3.48	2.83	3.22	2.61	3.43	3.96	4.27	4.00	2.83	1.26	1.17	2.96	3.09	2.30	3.17	2.87
2	2.65	3.39	3.43	3.83	2.48	3.52	3.39	4.13	4.30	4.41	4.30	3.17	1.48	1.17	3.39	4.04	2.52	3.48	3.57
3	3.87	4.35	4.52	4.26	3.70	4.04	2.74	3.39	4.48	4.00	4.43	3.65	2.09	1.91	4.04	4.04	2.91	3.96	3.91
4	3.23	3.32	3.68	3.45	3.23	3.59	2.91	3.09	3.38	3.45	3.32	3.41	3.73	3.36	3.68	3.45	3.18	3.64	3.41
5	1.96	2.09	2.52	2.26	1.52	3.30	4.35	2.48	3.13	2.26	2.39	2.70	4.30	3.61	3.17	3.30	2.87	3.22	3.00
6	3.91	3.77	4.09	4.27	3.45	4.00	2.91	4.32	4.64	4.67	4.59	3.77	1.36	1.36	4.09	4.36	2.27	3.77	3.55
7	2.52	2.57	2.87	2.52	2.00	3.70	4.04	3.17	3.78	3.22	2.30	3.13	4.04	2.78	3.65	3.78	3.04	3.39	3.52
8	4.13	4.43	4.48	4.48	4.04	3.83	2.39	2.74	2.91	3.18	2.70	3.43	2.96	3.87	3.91	3.17	2.78	3.87	3.65
9	3.13	2.70	2.70	2.61	2.52	2.87	2.26	3.91	4.26	4.30	4.57	2.48	1.32	1.30	2.86	3.64	2.32	2.91	2.86
10	2.17	2.39	2.74	2.61	1.74	4.13	4.43	3.70	4.35	3.35	3.22	3.48	4.17	2.36	4.13	4.22	3.35	3.83	3.83
11	3.96	4.13	4.26	4.13	3.87	4.22	3.05	3.13	3.70	3.65	4.17	3.39	3.65	3.13	3.83	4.00	3.48	4.13	3.70
12	2.35	2.78	3.30	2.78	2.13	3.57	4.65	3.26	3.45	2.70	2.61	3.26	4.13	3.57	3.78	3.73	3.17	3.35	3.48
13	2.35	2.70	3.04	3.17	1.96	4.35	4.52	4.09	4.48	3.35	4.23	3.55	4.13	3.09	4.48	4.26	3.48	3.96	4.09
14	1.77	2.05	2.09	2.00	1.45	3.00	2.68	2.41	3.05	2.95	3.91	2.27	3.41	2.73	3.00	2.95	3.00	2.77	2.67
15	2.09	2.09	2.59	2.05	1.64	2.82	2.82	2.18	2.27	2.36	2.86	2.18	4.09	3.50	2.59	2.36	2.91	2.86	2.73
16	2.83	2.57	2.59	2.30	2.17	2.65	2.35	2.83	3.52	4.00	4.30	2.39	2.48	1.83	2.78	3.17	2.70	2.65	2.78
17	2.59	2.09	2.86	2.64	2.41	3.23	2.41	2.73	3.09	3.40	2.82	2.91	3.68	2.95	2.91	3.23	2.95	3.09	3.00
18	2.96	2.96	2.96	2.68	2.39	2.35	2.26	2.43	4.17	4.09	4.74	2.61	1.22	1.09	2.39	2.70	1.91	2.48	2.35
19	3.64	2.68	3.22	2.30	3.22	3.30	3.17	3.91	4.48	4.52	4.61	3.52	1.22	1.22	3.35	3.52	2.09	3.13	3.22
20	4.13	4.39	4.43	4.26	3.96	4.48	2.91	4.13	4.65	4.61	4.78	4.00	1.22	1.43	4.22	4.35	2.61	4.13	4.13
21	1.77	3.05	2.41	2.18	1.55	2.00	3.36	2.91	3.64	2.05	1.73	2.36	3.09	1.81	2.55	2.09	1.55	2.86	1.91
22	1.22	1.61	1.52	1.57	1.17	1.35	3.00	1.70	2.26	1.52	1.30	1.43	2.57	1.83	1.26	1.13	1.04	1.70	1.13
23	1.65	1.87	1.91	1.74	1.26	1.91	3.17	2.39	3.30	2.13	1.35	1.96	3.26	1.64	2.09	1.57	1.30	2.18	1.83
平均	2.78	2.94	3.13	2.94	2.46	3.28	3.15	3.15	3.71	3.41	3.44	2.95	2.82	2.29	3.27	3.31	2.60	3.24	3.10

数値の実線下線は各項目における上位5つを、点線下線は同じく下位5つを表す。

4.2.2 水辺が持つ性質の対応分析による解釈

生徒および保護者のそれぞれについて、§4.2.1で求めた得点を用いた全地点の対応分析を行ったところ、図4-3・図4-4のような布置図が得られた。引き続き、対応分析における次元の得点を用いてクラスター分析を行い、その結果から布置図内の地点を数個のグループに分類した。図中に配置されている記号(▲, ◆)は、それぞれ地点ならびに項目(前掲表4-1・表4-2参照)を表している。本分析では、得点の相対的なパターンが似ている地点同士あるいは項目同士が近隣に配置される。また、ある項目に近い地点は、項目全体の中でその項目の得点が相対的に高くなっているといえる。

まず生徒の方の布置図において、水辺は5個のグループに分類された。

グループiは、図の左方に形成されている8地点である。nから遠く離れaやeなどの付近に集まっていることから、人工的との印象が強いが、水のきれいさなど水そのものが持つ良好さが評価されているといえる。

グループiiは、図の中央やや上寄りに形成されている6地点である。グループiよりもaやeから離れ、n, m, qあるいはoに近いことから、自然的な性質が好まれている水辺だといえる。

グループiiiは、グループiiの右下側に位置している6地点である。グループiiと同じようにnやmに近く、さらに下方のgに近づいていることから、自然性や生物感に加えて広さを感じさせる水辺だといえる。

グループivは図の下方に形成されている2地点である。g以外の項目から離れて位置しており、広さだけが印象的に感じられる水辺だといえる。

グループvは、グループiiiおよびivの中間に位置しており、地点22のみから成る。やはり広さが相対的に目立つが、グループivよりは自然性も感じられている水辺だといえる。

これらの分析を通じて、以下のように軸の解釈を行った。第1軸は、左ほど水そのものの良好さが印象的であるという、そして右ほど周囲の自然的な環境による印象を併せ持っているという水辺の性質を表していると考えられる。そして第2軸は、下ほど広がりなどの空間的な雰囲気による印象が強いという、そして上ほど水と自分との関わり合いによる様々な印象を併せ持っているという水辺の性質を表していると考えられる。

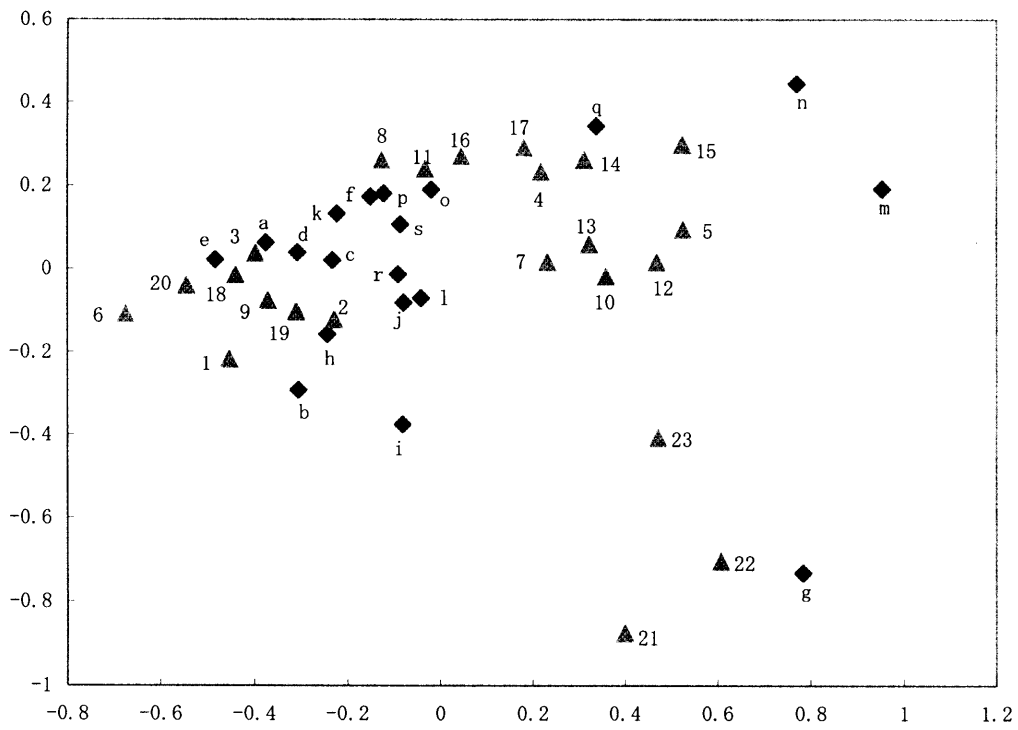


図 4-3 生徒の対応分析布置図

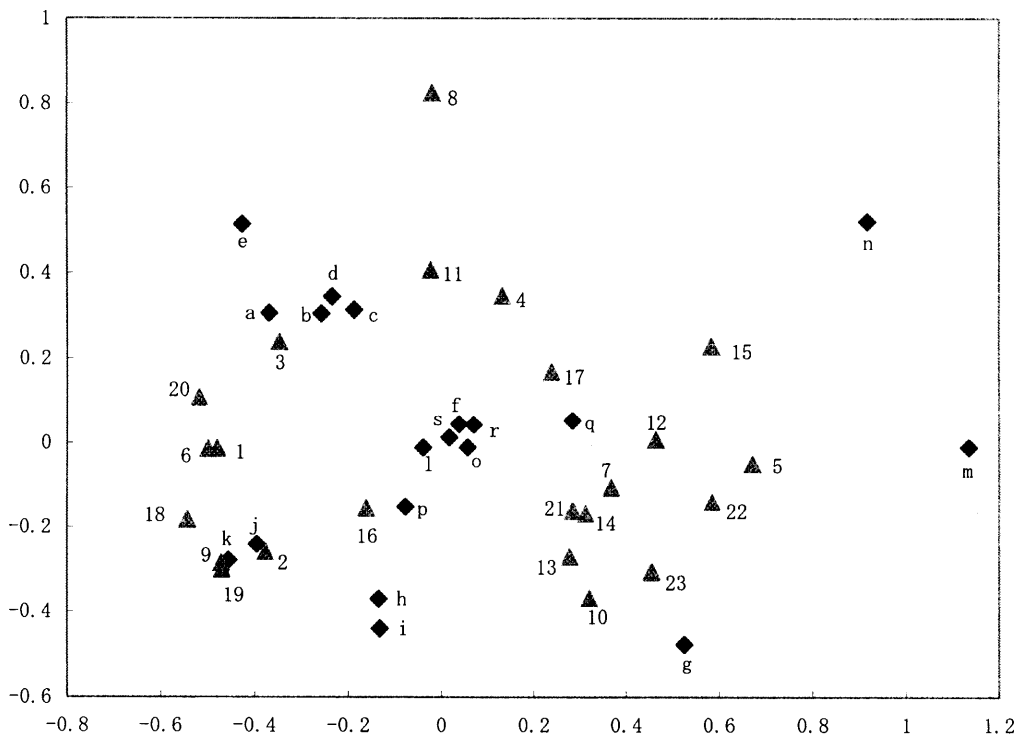


図 4-4 保護者の対応分析布置図

次に保護者の方の布置図において、水辺は6個のグループに分類された。

グループⅠは、図の左方下段に形成されている5地点である。kやjの周辺に集まっており、nやmから遠く離れていることから、人工的な感じで水辺への近づきやすさや安全性が主に評価されている水辺といえる。

グループⅡは、グループⅠの上寄り、図の左方中段に形成されている4地点である。グループⅠと同様にnやmから遠く離れているが、a, b, c, d, eの近隣に配置しており、人工的ではあるものの水の流れや清涼感に対する評価が特徴的な水辺といえる。

グループⅢは、図の中央下段に形成されている6地点である。グループⅠやⅡよりもnやmの方に寄っており、またgにも近いことから、広がりのあるやや自然的な水辺だと認識されているといえる。

グループⅣは、グループⅢの右上に位置する4地点である。自然性や生物感に対する評価が他の項目よりも相対的に高い水辺だといえる。

グループⅤは、図のほぼ中央部に位置する3地点である。水の動きやきれいさを感じさせつつもグループⅡより自然的な水辺だといえる。

グループⅥは、図の上部にある8の1地点のみである。様々な項目を示す点からの距離が離れており、得点に特徴的な傾向がある項目があまりない水辺だといえる。

また、評価項目についてa, b, c, d, eおよびf, l, o, r, sがそれぞれ近寄って位置しており、これらの項目の得点の傾向に相同性があることが示されている。また後者の方について、Ⅰ～Ⅴのグループの間に配置されており、特定のグループだけがこれらの項目の得点に特徴的な傾向を持っているとはいえない状況にある。

保護者の方の軸については、生徒の方とは多少違った解釈が行える。第1軸は、左ほど安全に水辺に近づけそうな、右ほど近寄りにくそうな水辺の性質を表していると考えられる。第2軸は、下ほど水辺の広さや整備の程度など空間の雰囲気から受ける印象が強く、上ほど水そのものの性質から受ける印象が強いという性質を表していると考えられる。

4.2.3 グループごとの得点の傾向

対応分析の布置図において分類された各グループについて、そこに属する水辺の項目ごとの平均得点を求めたところ、表 4-5・表 4-6のようになった。

生徒のグループでは、r および s の得点はグループ i のみが 3（中立的な評価）以上の値を示している。またこのグループは a～f, h, o, p についても高いが、逆に他のグループではこれらがあまり高くない。また、m や n はグループ ii と iii で高いが、これらの q は、グループ間では高いものの 3 より少し小さな値になっている。グループ v は、g 以外全て 3 以下の値になっている。

一方、保護者のグループでは、グループ II, V および VI で r や s 得点が高くなっている。

グループ I は、h, i, j, k あるいは p などの平均得点が高いものの、r や s はほとんど 3 に近いなど、その他の項目の得点はさほど目立たない。

グループ II は a～f ならびに o, p, r, s の平均得点が高いことが特徴的である。3, 6, 20 はこれらの項目の多くで得点が全体の上位にある。

グループ IV は、g, m, n の平均得点が高く、個別の水辺の得点も全体の上位にきているものがある。しかし q の得点はそれほど高くはなく、また r や s についても 15 や 22 の地点は下位にある。

グループ VI は、対応分析の布置図からは、他の項目と比べて特徴的な評価の傾向を持った項目があまりないことが示されている。しかし、a～f, n, o, r, s などの項目についていずれも得点自体は高い。たとえば、グループ I は a～f の得点はグループ VI に近いが、n の得点はこれよりも低いということとは対照的であるといえる。

表 4-5 生徒の対応分析におけるグループごとの得点

グループ	項目	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	q	r	s
i	{1, 2, 3, 6, 9, 18, 19, 20}	3.65	3.41	3.20	3.37	3.30	3.22	3.17	2.40	3.58	3.81	3.98	2.87	1.67	1.72	3.17	3.43	2.27	3.27	3.00
	{4, 8, 11, 14, 16, 17}	2.94	2.70	3.00	2.87	2.56	2.93	2.74	2.89	3.04	3.48	3.32	2.72	3.47	3.26	3.19	3.15	2.95	2.98	2.76
iii	{5, 7, 10, 12, 13, 15}	2.12	2.08	2.48	2.27	1.89	2.70	3.86	2.54	2.96	3.10	2.88	2.49	3.69	3.30	3.03	2.94	2.83	2.71	2.64
	{21, 22}	1.42	2.19	1.74	1.51	1.30	1.39	3.96	1.90	2.67	2.26	1.57	1.83	2.53	1.88	1.59	1.43	1.48	1.91	1.48
v	{23}	1.88	1.76	1.83	1.78	1.43	1.63	3.55	1.95	2.51	2.43	1.75	1.82	2.96	2.09	1.70	1.68	1.76	1.84	1.57

表 4-6 保護者の対応分析におけるグループごとの得点

グループ	項目	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	q	r	s
I	{2, 9, 16, 18, 19}	3.04	2.86	2.98	2.74	2.56	2.94	2.69	3.44	4.15	4.26	4.50	2.83	1.54	1.32	2.95	3.41	2.31	2.93	2.96
	{1, 3, 6, 20}	3.72	4.04	4.18	4.07	3.49	3.94	2.79	3.82	4.43	4.39	4.45	3.56	1.48	1.47	3.83	3.96	2.52	3.76	3.62
III	{7, 10, 13, 14, 21, 23}	2.04	2.44	2.51	2.37	1.66	3.18	3.70	3.11	3.77	2.84	2.79	2.79	3.68	2.40	3.32	3.15	2.62	3.17	2.98
	{5, 12, 15, 22}	1.91	2.14	2.48	2.17	1.62	2.76	3.71	2.41	2.78	2.21	2.29	2.39	3.77	3.13	2.70	2.63	2.50	2.78	2.59
V	{4, 11, 17}	3.26	3.18	3.60	3.41	3.17	3.68	2.79	2.98	3.39	3.50	3.44	3.24	3.69	3.15	3.47	3.56	3.20	3.62	3.37
	{8}	3.37	4.13	4.43	4.48	4.04	3.83	2.39	2.74	2.91	3.18	2.70	3.43	2.96	3.87	3.91	3.17	2.78	3.87	3.65

4.3 景観の評価と利用行動との関連性

4.3.1 水辺の景観評価による得点

§3.4.1で扱った水辺における利用行動のうち、景観評価調査で尋ねた項目と関連性のあるものについて、それらの対比を行った。生徒と保護者のそれぞれについて、利用行動 a / Aは項目 o と、c / Cは項目 p と、e / Eは項目 e と、g / Gは項目 q と対比させたところ、表 4-7の通りになった。

生徒の方では、まず水辺の風景を眺める行動について、新江戸川公園や神田川（水道橋～飯田橋）が比較的多くなっている。このうち前者は水辺風景に対する評価はほぼ中立的であるが、後者は評価が大変悪いといえる。逆に、播磨坂さくら並木や大塚公園はこの評価が高めであるが、利用行動はむしろほかの水辺より少ない。休息をすることについても、同じく大塚公園や播磨坂さくら並木は、評価は高めであるものの利用行動は少なくなっている。しかし小石川植物園は、利用行動が多めで、日本庭園における評価もよい。水に触れることについて、播磨坂さくら並木は高い評価を得ていたが、利用行動としてなされることは大変少ないといえる。動植物とのふれあいは、全体的に水辺の風景を眺めたり休息したりする行動よりもさらに少ない。そして小石川植物園や占春園、新江戸川公園などは点よりも高めだが、これらの地点の評価は中立的かやや悪い程度である。

一方保護者について、教育の森公園や播磨坂さくら並木は休息する場所として高く評価されているが、他の地点に比べて休息やリラックスという利用行動が特に高くはない。生徒と同じく、播磨坂さくら並木で水に触れることについて、評価は高いものの行動はほとんどなされていない。

これらのことから、景観評価で良好な評価を得ていても、実際にその利用行動が多くなされていないとはいえない地点があること、逆に多くの利用行動がなされているものの評価が高いとはいえない場合があることが示された。

表 4-7 景観評価と利用行動の対比

上段：利用行動 下段：景観評価

	生徒				保護者			
	水辺の風景	休息	水に触れる	動植物	水辺の風景	休息	水に触れる	動植物
大塚公園	0.34	0.59	0.14	0.00	1.22	1.26	0.04	0.30
	3.13	3.17	3.23	2.27	2.96	3.09	2.83	2.30
江戸川公園	1.09	0.92	0.41	0.21	1.88	1.16	0.04	0.30
	1.70	1.68	1.43	1.76	2.09	1.57	1.26	1.30
新江戸川公園	2.28	1.15	0.18	0.62	2.57	1.65	0.17	0.87
	2.90	2.83	1.70	2.92	3.17	3.30	1.52	2.87
本郷給水所公苑	1.10	1.00	0.33	0.13	2.09	1.52	0.48	0.83
	2.87	3.07	2.09	2.64	2.78	3.17	2.17	2.70
	2.91	2.97	1.99	2.68	2.91	3.23	2.41	2.95
教育の森公園	0.97	0.83	0.24	0.12	1.32	1.13	0.26	0.21
	2.39	2.91	1.87	1.89	3.39	4.04	2.48	2.52
播磨坂 さくら並木	0.53	1.07	0.07	0.27	1.18	0.73	0.03	0.08
	3.83	4.09	4.07	2.64	4.22	4.35	3.96	2.61
神田川（聖橋～ 水道橋）	1.57	0.91	0.35	0.48	2.73	0.45	0.05	0.05
	1.76	1.61	2.55	1.58	2.55	2.09	1.55	1.55
神田川（水道橋 ～飯田橋）	2.42	1.16	0.11	0.42	0.89	0.00	0.00	0.00
	1.41	1.25	1.24	1.37	1.26	1.13	1.17	1.04
小石川植物園	1.81	1.60	0.24	0.86	1.76	1.30	0.20	0.83
	3.43	3.57	1.89	3.04	4.48	4.26	1.96	3.48
	2.70	2.89	2.12	3.05	3.00	2.95	1.45	3.00
占春園	0.50	1.60	0.40	0.70	2.20	1.25	0.10	0.10
	2.41	2.14	1.61	2.72	2.59	2.36	1.64	2.91
小石川後楽園	1.31	1.62	0.00	0.46	1.86	1.19	0.19	0.38
	3.03	2.91	1.97	2.88	3.78	3.73	2.13	3.17

本郷給水所公苑の2段目は地点16：流れと池、3段目は地点17：ビオトープの評価である。
また小石川植物園の2段目は地点13：日本庭園の池、3段目は地点14：湧水の池の評価である。

4.3.2 二つの調査のグループ分けの対照

生徒および保護者について、第3章のアンケート調査における分析で示されたグループと、第4章での景観評価調査において分類されたグループの対照を行ったところ、それぞれの水辺（ただし両方の調査でともに扱われている水辺に限る）は表4-8および表4-9のように位置づけられた。

生徒の方について、スポーツや遊びで利用されることの多い大塚公園や教育の森公園にある水辺は、水のきれいさなどが評価されているグループのものである。直接的に水辺とふれあう行動がなされないとしても、広場を利用している周囲にそのような水辺を感じ取ることができるという関わり合い方が期待できるといえる。

また、通行型の利用の多い神田川の聖橋～水道橋および水道橋～飯田橋において、現状ではほとんど評価されていることがないといえるが、生徒を引きつけるような整備が望ましいと考えられる。たとえば生徒は水のきれいさに強く反応しているので、通行の際でも川の眺めにもそれを感じることができるよう整備が行えれば、生徒の充足感の向上に寄与する可能性がある。

そして本郷給水所公苑や占春園は、友人とのコミュニケーションの場としての利用が特徴的であるといえる。それらの水辺について、生徒の関心が向くような動植物とのふれあいに関する機能を高める整備が行えれば、友人とともに利用することが期待されるものと考えられる。

一方で保護者の方については、風景を眺めたり休息したりするのに向いている水辺は訪問型の利用がなされるところに多く集まっていることが示されている。このような利用に対する保護者の要求は強いと考えられるので、それに向いた高い質を備えた水辺を、広場型あるいは散策型の公園などに整備することができれば、水辺に対する充足度の向上に対して大きな効果が期待できると考えられる。

このような水辺の整備により、生徒および保護者に対してより充実したアメニティ機能を提供できるようになるものと考察された。

表 4-8 二つのグループ分類による水辺の位置づけ：生徒

		アンケート調査			
		広場型	散策型	訪問型	その他
景観評価調査	i	大塚公園・噴水 教育の森公園・修景施設	播磨坂さくら並木・流れ		
	ii		六義園・泉	小石川植物園・湧水池	
	iii		六義園・池	新江戸川公園・池 小石川後楽園・池 小石川植物園・庭園池	本郷給水所公苑・流れ 本郷給水所公苑・ ビオトープ
	iv		神田川・聖橋～水道橋 神田川・水道橋～飯田橋		占春園・池
	v	神田川・一休橋 (江戸川公園)			

表 4-9 二つのグループ分類による水辺の位置づけ：保護者

		アンケート調査			
		広場型	散策型	訪問型	その他
景観評価調査	I	教育の森公園・修景施設	本郷給水所公苑・流れ		
	II	大塚公園・池	播磨坂さくら並木・流れ		
	III		神田川・一休橋 (江戸川公園)	小石川植物園・湧水池 小石川植物園・庭園池 六義園・池	神田川・聖橋～水道橋
	IV			新江戸川公園・池 小石川後楽園・池	占春園・池 神田川・水道橋～飯田橋
	V		本郷給水所公苑・ ビオトープ	六義園・泉	

4.4 水辺の景観評価に関する考察

4.4.1 現存する水辺に対する評価

住民による景観評価調査の結果から、市街地に現存する水辺は数個のグループに分類された。そして評価得点の傾向の比較から、それぞれのグループの特徴を明らかにすることができた。このようなグループの形成により、水辺を形態ではなく性質によって分類し、整備の方向性を考察することが可能になったといえる。

対応分析の布置図で傾向が特徴的であることが示され、得点自体も高くなっている項目については、そのグループの水辺が適性をもっていると考えられる。たとえばグループ i やⅡは、水のきれいさの評価が高くなっており、このグループに属するような水辺はその特長を生かした整備が効果的であると考えられる。

生物とのふれあいの場としての評価は、グループ ii およびVがグループ間の比較で得点が最も高かった。これらのグループには、修景施設や日本庭園の池とは様子の異なる、小規模ではあるが半自然的な関口台公園の池や本郷給水所公苑のビオトープなどの水辺が含まれている。市街地住民の水辺の動植物とのふれあい行動について、このような水辺が利用要求に応えやすい性質を持っていることが示されたといえる。しかし、これらの得点自体は3前後であり、中立的な評価にとどまっているといえる。また、生物がいそうか、あるいは自然的かといった評価の高さが、動植物とふれあう場としての評価に必ずしも結びついていない状況にあるともいえる。水辺への近づきやすさや安全性に対する評価は、動植物の観察という利用行動への意欲に影響を与えている可能性が考えられる。

また、文京区においては日本庭園が、動植物とのふれあいの場としての機能の一部を担っている状況にある。これはいわば、江戸時代からの遺産が比較的多く残されている文京区ならではの環境ともいえる。そのような環境を活用しつつ、より一般的な利用のできる都市公園においても十分にそれらの機能を果たせるような状況が望ましいと考えられる。

以上のようなことから、既存のものよりもさらに動植物とのふれあい行動を喚起するような質を備えた水辺が、今後は必要とされるのではないかと考えられる。

大塚公園や教育の森公園などのにある石造りの修景施設は、そのほとんどがグループ i, I またはⅡに属している。これらのグループの水辺は、水の動き・流れや清涼感が生徒と保護者の両方に高く評価されているといえる。さらに休憩する場所としての評価も高く、このような機能を果たすのに適した水辺だと考えられる。しかしこれらの水辺は、窪町東公園や播磨坂さくら並木にある石造りの流れのようなものであっても、自然性に対する評価は高い

とはいえなかった。水のきれいさや動きなどと共に自然性も感じさせる水辺は、須藤公園の滝に限られており、既存の市街地の水辺としては例が少ないと考えられる。両方の性質を兼ね備えた水辺は、今後の整備で求められるものの一つになると考えられる。

なお、このような石造りの修景施設については、水が流れる時期が夏季を中心に限定されているものが存在する。このことが、市民の水辺とふれあう機会が少ないと感じることの一因になっている可能性が推測される。水の涼しさなどの魅力がもっとも発揮される季節は夏であると考えられるが、それ以外の季節で水のない時には住民にどのように意識されているのかを検証し、身近な水辺の整備のあり方を考慮する必要があると考えられる。

六義園や後樂園などの日本庭園様式の池は、グループⅢ、ⅢまたはⅣに属している。これらの水辺は、保護者にとって水辺の風景のきれいさが感じられ、身近に欲しい水辺だと思われる傾向にあるが、生徒にとってはあまりそのような評価されているとはいえないことが特徴的である。また、水そのもののきれいさを感じられることは少ないが、水辺の生物がいそうに感じられ、動植物のふれあいの場としても多少評価されている。歴史的な庭園風景ばかりでなく、市街地における水辺の動植物の生息地としても、これらの水辺が果たす機能が期待されていると考えられる。

神田川の3地点の評価は、総じてあまり良いとはいえなかった。水のきれいさや流れ、水辺の風景、休憩する場所や動植物とふれあう場所としての評価、さらに好感度や身近に欲しい水辺としての評価の得点は低いものが多くなっている。西名・村川(1997)⁴⁴⁾は、神田川を含む国内外30河川の景観評価調査を行っているが、本研究の22(神田川水道橋付近の景観)に類似した景観に対して、快適性の悪さや満足意識の低さ、あるいは景色に対する評価の低さが示されており、これに類似した結果だといえる。空間的な広がりのほかは、河川の景観を眺めても良好な心理的な効果がほとんど感じ取れない状況にあるといえる。このようなことは、市街地住民と河川とのふれあいにおいて障害となる可能性がある。清水ら(1995)²⁹⁾は都市内中小河川沿いの公園を対象とした景観評価調査を行っているが、「河川への近づくやすい」ことや「ゆったりしている」ことに関わる「安心感」や、「眺めがよい」ことや「季節感がある」ことに関わる「人工感」などの因子が抽出されている。また清水ら(1999)³⁰⁾は、神奈川県を流れる二ヶ領本川を対象とした調査において、周辺住民の水辺利用の有無を規定する潜在変数として、風景や景観の良さに代表される「水辺の雰囲気の良い」と、気軽に行けることに代表される「水辺への親近感」を抽出している。これらのことから類推すると、市街地の水辺として安全で気軽な利用が行えることと風景の良さを持ち合わせた整備が、住民に評価される景観において重要であると考えられる。

一方で、保護者の景観評価においては、神田川の2地点は日本庭園の池などと共にグループⅢに分類され、広がりや生物の気配を感じさせるなど似た傾向を持つことが示されてい

る。そのような点を重視しながら、水辺における様々な利用行動を可能にするような整備が市街地の河川には必要とされると考えられる。

保護者においてグループVIを形成した須藤公園の滝は、生徒の方ではグループiiに含まれているが、文京区の水辺において独特の景観を持ったものだと評価されていると考えられる。個別の地点についての評価を見ると、自然性について生徒、保護者ともに最も高い得点になっている。現在では人工的に給水されているが、周囲の様子はかつて自然の湧水によって滝が生み出されていた頃と同じようなままである。したがって、文京区の立地を活かした自然的な湧水を想起させるような水辺は、須藤公園の滝と同じように独特の魅力を住民に評価されると類推される。地域的な個性を持った水辺として、今後の整備における一つの方針を示したものだと考えられる。

以上のことから、文京区には住民に評価される魅力を持った水辺が複数存在することが明らかになった。渡辺ら(1995)⁷⁰⁾は、住民が身の回りの水辺に感じる魅力として「接水：水遊び、釣りやボート遊びができることや、魚や水辺の生き物がいること」と「涼感：涼しい感じがすること」の2つの分類を挙げている。本研究では、水のきれいさなどの「清涼感」および水に触れる行為について高く評価されているグループがみられ、これは既往研究の「涼感」に、「接水」の一部を加えた魅力を持ったものに相当すると考えられる。そして、既往研究では挙げられていない「水辺の風景」が評価されているグループもみられたが、日本庭園などの水辺では、この評価と水が涼しそうかという評価とはあまり関係していないと考えられる。また、動植物とのふれあいが魅力的な水辺もあるが、その評価は必ずしも高いとはいえないので、なお一層の整備が望ましいと考えられる。

4.4.2 生徒と保護者の評価の差異

景観評価の比較から、保護者は生徒よりも、水辺による休息やリラクスの効果を評価しやすい傾向にあることが示された。これについては、§3.4.1で述べたような、保護者が水辺のある緑地を訪れるときには水や緑を眺めることや休息、リラクスをすることが行動の主体となっていることとの関連性が考えられる。水辺の持つそのような機能に対して保護者の反応性は高いといえることから、保護者の利用欲求に質的に応えられるような整備を行うことが重要であると考えられる。

また、対応分析の布置図において、生徒の方は保護者よりも点同士が全体的に近寄った配置になった。このことは、生徒は類似した水辺には保護者ほど個々の違いを見いだしにくいと同時に、保護者は1つの水辺から多様な印象を感じ取り得ることを示唆していると考えられる。

以上のように生徒と保護者が異なる傾向を持っていること、たとえば保護者の好みの水辺が多岐にわたることなどについては、年齢による精神的な違いや、水辺とのふれあい体験の積み重ねの差などが介在していると推察される。仮に保護者が、潜在的な欲求ともいえる、自分の好みの水辺像を持っているとすれば、身の回りの水辺に充足度を覚えるかどうかは、そのような基準と比較して判断されている可能性がある。この場合、保護者の水辺に対する充足度を向上させるためには、それぞれの質が高い多様な水辺を整備する必要があると考えられる。一方で生徒に向けては、水辺の特徴的な魅力が鮮明に分かるような整備を行うことが、水辺への関心および充足感を高めることにつながるものと考えられる。この異なる方向性をどのように統合していくべきかは今後の課題であるが、水辺の整備においては年齢層による意識の差異に十分留意する必要があるものと考えられた。

4.4.3 好みの水辺と充足度との関係性

生徒は、水の清涼感や動きがわかりやすいグループ i のような水辺を好みやすく、それ以外の水辺を好むあるいは身の回りに欲しがる程度は保護者よりも低い傾向にあることが示された。したがって、生徒が「良い水辺が身近にある」という充足感を覚えることには、このような水辺と日常生活においてふれあえるかどうか大きな影響を与えるものと推察される。噴水や傾斜の流れ、あるいは滝のように水そのものの性質を感じ取りやすいことが、生徒にとっての水辺らしさに結びついていると考えられる。既往研究では、人工的な修景施設の景観評価構造において、水の流れや動き、立体的かどうかで構成される「動き」の因子や、水の透明感などで構成される「親しみやすさ」の因子が挙げられており⁶²⁾、これらのことが本調査の評価に影響している可能性もある。

しかし、上述した生徒が好みやすい水辺は、例えば生物とのふれあいには向いておらず、水辺の持つ多面的な機能の一部を提供しているものである。他のグループの水辺と関わり合うことによってでも、生徒に充足感を与えることができるのか、あるいは新たに生徒の関心を獲得しうる水辺のあり方はどのようなものかということも、今後は考えていく必要があるだろう。

一方保護者は、生徒と同じようなグループ II の水辺の他に、グループ III や V、VI のような水辺も好むことが示された。日本庭園の池のような独特の景観を持った水辺に加え、本郷給水所公苑のビオトープの池や、須藤公園に復元された滝のように特徴的な水辺など、多様な水辺に対して保護者の関心は向いていると考えられる。したがって、そのように傾向の異なる多様な水辺を市街地に整備することは、保護者の水辺に対する充足度を向上させる効果を持つものと考えられる。

なお、景観評価調査においては文京区全体から集めた水辺を対象としたが、実際の住民の身の回りには限られた個数の水辺しか存在せず、日常でそれらすべての水辺を利用できる状況にあるとはいえない。そのような制約がある中で、なるべく多様な水辺が存在するよう、配置に関する整備を行っていくことが重要であると考察された。

4.4.4 利用行動との結びつき

水辺の利用行動と景観評価との対比において、利用行動の多さと景観評価の良さ、あるいはその逆が合致しない組み合わせが多く見られた。

たとえば神田川は、水辺の風景に対する評価があまり良いとはいえないが、水辺の風景を眺めるという利用行動が比較的多い場所だといえる。構造的なことから河川の方向に目が向きやすいことが影響していると考えられるが、そのような注目を集めやすい水辺の景観が良くないことは、水辺の質に対する不満を募らせる一因となっている可能性がある。

一方で、評価の高かったことに関する利用行動が多いとは限らないことも示された。とくに噴水や流れなどの修景施設について、水辺の風景や休息する場としての評価が高くても、利用行動はさほど高いとはいえない傾向が見られる。その要因はいくつか推察されるが、たとえば、思わず水に触れたいくなるような快適性をその水辺が有していると認識することと、実際に水で手を濡らしてみることとが、特に成人層では結びつきにくくなっている可能性が考えられる。また休息するという点に関しても、十分にベンチが整備されているか、あるいは水辺の周辺が落ち着けるような造りになっているかということが、利用行動の多少に影響を与えていることが考えられる。さらには、播磨坂さくら並木や江戸川公園のように通行型の利用の割合が高いところでは、時間的にゆっくりと休息をとる利用がなされにくいことも考えられる。

これらのことから、住民の身近に質の高い水辺が存在したとしても、それを利用行動を通じてなかなか体験できず、充足度が高まりにくくなっている状況が生み出されている可能性が考えられる。逆に、場所の性質から多くなりやすい利用行動について、それに関する水辺の質が良くないことが、充足度を低める結果につながっていることも推察される。したがって、その場における利用行動の傾向をふまえ、効果的な質の向上を目指した整備を行うことが重要であると考察された。あわせて、整備した水辺のアメニティを十分に発揮するためには、利用行動に付随して必要となる設備も同時に整備する必要があるものと考察された。

第5章

結論

5.1 本研究の総括

現在の文京区の住民は身の回りの水辺に対する充足度が高いとはいえ、区内の水辺によるアメニティは十分に機能しているとはいえない状況にあることが示された。この状況を改善するためには、住民の要求に応えられる質と、利用する機会を得やすい配置の両方について、今後の整備が必要とされると考えられる。

そして文京区では、住民の水辺とのふれあいにおいて、都市公園などの緑地にある水辺が重要性を持つことが確認された。現状において、河川は人々の利用が活発であるとはいえ、景観に対する評価も低くなっている。住民の近隣にある都市公園において水辺の整備を推進していくと共に、水辺としての資源がより活用されるような河川環境造りが必要とされると考えられる。

景観評価調査からは、水そのものの良好さが高く評価され、生徒および保護者に好まれている水辺の存在が明らかになった。このような水辺が利用しやすくなれば、水辺の風景に関するアメニティへの要求に応えることが可能であると考えられる。一方で、動植物とのふれあいが評価された水辺は少なく、それらの評価自体もあまり高いとはいえなかった。水辺の動植物に関するアメニティへの対応は不十分であり、今後はそれに適した水辺を整備していくことが重要であると考えられる。また、給水所の屋上に造られたビオトープや崖地に復元された滝のような独特の水辺は、住民から良好な評価を得ていた。石造りの修景施設や日本庭園の池などの既存の都市公園に比較的好く見られる水辺とは異なる、新たな整備の方向性を示す存在だと考えられる。

さらに、生徒は保護者とは水辺に対する意識について異なる面を持っており、利用行動や景観評価の特徴をふまえた若年層にも親しまれる水辺の必要性が示唆された。加えて、保護者が好む水辺は多岐にわたることが示されており、目的に応じて各種の利用が行えるよう多様な水辺環境を整備することが望ましいと考えられる。

以上のような整備により、市街地住民の水辺のアメニティ機能に対する要求に応えられるような水辺環境を創出することが可能になると考察された。

5.2 研究の今後の展開

本研究は東京都の一区部を対象としたものであるが、河川のような大規模な水辺を持たない類似した環境の市街地において、得られた知見を活用できる可能性を有していると考えられる。しかし、たとえば河川とその他の水辺の配置の状況が違う場合や、比較的近年になってから公園の整備が始まりだした近郊の市街地の場合など、異なる水辺環境の市街地においては、別の水辺整備のあり方が存在する可能性がある。また、区内に見られないような水辺は調査対象として扱えなかったため、それらの知見については未だ不十分なままである。今後の研究の積み重ねにより、さらに実理的な論理を構築していく必要があると考えられる。

また、市街地における水辺整備を実現させるためには、アメニティ機能以外の都市の熱環境や生態学などの視点からのあり方、そして土地利用の可能性などを含めた総合的な議論が必要とされる。周辺分野の研究とともに、水辺の配置やデザインの具体的な方策を追求して行かなくてはならない。

都市公園に水辺を整備しようとする際には、その是非について周辺住民のコンセンサスの形成が必要になると考えられる。たとえば増田ら(1990)⁵⁰⁾は、宅地化が急速に進みつつある地域のため池について、近隣の公園の存在状況による利用要求やため池の自然性、景観性から、保存または公園利用のポテンシャルの評価を試みている。しかし本研究で対象としたような市街地にはすでにそのような水辺はほとんど残されておらず、創出型の整備を考慮する必要がある。新たな水辺を創出する際、景観や利用の評価に加えて、地域の歴史的な背景や地質学的な面からも、水辺の整備がふさわしいか、あるいは実現可能かを検討しなくてはならない。さらに、都市公園の水辺に対しては高度な安全性が追求され、設置後も水辺周辺の維持管理が必要である。住民の整備計画や管理への参加がしっかりと位置づけられ、地域のアメニティに資する水辺を創出できるような手法を、実践を通じながら確立していくことが望まれる。

参考文献

学研究論文

- 1) 安部大就, 増田昇, 下村泰彦, 山本聡, 近藤歩 (1992) : 画像処理システムを用いた河川空間整備手法に関する研究. 造園雑誌 55(5), 283-288.
- 2) 安部大就, 増田昇, 下村泰彦, 山本聡, 加我宏之 (1995) : CG 画像評価による都市河川空間整備モデルに関する研究. ランドスケープ研究 58(5), 185-188.
- 3) 安藤正隆, 松本直司 (2000) : 都市内公園の水系施設における子供の遊び行為と空間条件の関係. 日本都市計画学会第 35 回学術研究発表 会論文集, 637-642.
- 4) 井沢知且, 浦山益郎 (2002) : 公共空間としての五条川 (一級河川) における自治体 (岩倉市) と市民団体による地域共同管理に関する研究. 日本都市計画学会第 37 回学術研究発表会論文集, 1021-1026.
- 5) 今田寛典, 今岡努 (1996) : 都市河川の河岸整備が地域住民の河川利用行動の及ぼす影響に関する分析的研究. 第 10 回環境情報科学論文集, 127-132.
- 6) 内田貴裕, 横内憲久, 岡田知秀 (2002) : 環境からの街づくりに関する研究. 日本都市計画学会第 37 回学術研究発表会論文集, 787-792.
- 7) 長田光世, 森清和, 田畑貞寿 (1993) : トンボの種類からみた水辺緑地計画の指標に関する予備的考察. 造園雑誌 56(5), 151-156.
- 8) 長田光世, 大纏亜実, 森清和, 田畑貞寿 (1994) : 都市における子どもの遊びと生きものの体験に関する研究. 造園雑誌 57(5), 241-246.
- 9) 上山肇, 北原理雄 (1994) : 親水公園の周辺土地利用と建築設計に及ぼす影響. . 都市計画論文集 29, 361-366.
- 10) 上山肇, 若山治憲, 北原理雄 (1994) : 親水公園の利用実態と評価に関する研究. 日本建築学会計画系論文集 No. 462, 127-135.
- 11) 上山肇, 若山治憲, 北原理雄 (1994) : 親水公園の周辺環境に関する研究. 日本建築学会計画系論文集 No. 465, 105-114.
- 12) 北岡真吾, 浅川昭一郎, 愛甲哲也 (1999) : 都市内河川景観における視線方向による評価構造の差違. ランドスケープ研究 62(5), 647-652.
- 13) 金華, 西名大作, 村川三郎, 飯尾昭彦 (2001) : 英国・日本・中国の被験者による河川景観評価構造の比較分析. 日本建築学会計画系論文集 No. 544, 63-70.
- 14) 日下知佳, 黒沢佳代, 篠原佳子 : 居住者意識から見た都市内親水公園評価に関する研究. 都市公園. 120, 75-79.

- 15) 久保貞, 中瀬勲, 安部大就, 杉本正美, 上甫木昭春 (1984): 河川景観の変容構造の把握に基づいた河川景観諸特性の考察. 造園雑誌 47(4), 205-220.
- 16) 久保貞, 中野賢治, 安部大就, 中瀬勲 (1984): 人々の反応行動に基づく都市の水景観に関する研究. 造園雑誌 47(4), 221-233.
- 17) 久保貞, 安部大就, 宮崎研一, 中瀬勲, 上甫木昭春, 伊藤康則 (1984): 大都市における緑地景観形成及びオープンスペース整備ポテンシャル評価に関する研究. 造園雑誌 47(5), 207-212.
- 18) 栗山明久, 田畑貞寿 (1988): 都市化による水利システムの再編と緑地化に関する研究. 造園雑誌 51(5), 329-334.
- 19) 畔柳昭雄, 渡辺秀俊, 長久保貴志, 近藤健雄 (1993): 住民の意識・行動に基づく都市の水辺環境評価に関する研究. 環境情報科学 22(2), 128-134.
- 20) 畔柳昭雄, 渡辺秀俊, 長久保貴志 (1993): 都市臨海部の水辺空間における利用者の水辺環境評価に関する研究—都市住民の親水行動特性に関する研究 その2. 日本建築学会計画系論文集 No. 454, pp. 197-205.
- 21) 畔柳昭雄, 渡辺秀俊 (1994): 都市臨海部の水辺空間における利用者の親水活動特性に関する研究—都市住民の親水行動特性に関する研究 その3. 日本建築学会計画系論文集 No. 459, pp. 195-203.
- 22) 畔柳昭雄, 渡辺秀俊, 田島佳征 (1994): 東京都区部における親水公園の形態・機能特性に関する調査研究. 第7回環境情報科学論文集, 83-88.
- 23) 畔柳昭雄, 渡辺秀俊, 磯部久貴 (1996): 都市河川の変遷から見た人と水との係わりに関する研究. 第10回環境情報科学論文集, 117-122.
- 24) 畔柳昭雄, 石井史彦, 渡辺秀俊 (1999): 河川空間に対する児童の活動特性とイメージ特性に関する研究. 日本建築学会計画系論文集 No. 518, 45-51.
- 25) 小谷幸司, 柳井重人, 丸田頼一 (2000): 幼稚園児の自然とのふれあい空間としての公園緑地の役割に関する研究. 日本都市計画学会第35回学術研究発表会論文集, 619-624.
- 26) 小松孝二, 市坪誠, 長町三生, 今田寛典 (1998): 都市における河川空間設計に関する基礎的研究. 第12回環境情報科学論文集, 227-232.
- 27) 澤木昌典, 上甫木昭春 (1995): 居住者の生物に対する嗜好からみたニュータウンの緑地保全に関する研究. ランドスケープ研究 58(5), 133-136.
- 28) 島田正文, 柳井重人, 丸田頼一 (1993): 昆虫等の小動物の生息に配慮した都市緑化の実態に関する一考察. 環境情報科学 22(2), 62-68.
- 29) 清水浩志郎, 木村一裕, 藤田勝 (1995): 河川公園における滞在時間の影響要因に関する研究. 都市計画論文集 30, 307-312.

- 30) 清水丞, 萩原清子, 萩原良巳 (1999): 潜在変数を考慮した水辺利用行動選択モデルの環境評価への適用. 第13回環境情報科学論文集, P155-160.
- 31) 清水正人, 松本直司 (2002): 都市内公園の水系施設の計画条件に関する研究. 都市計画論文集 37, 913-918.
- 32) 下村泰彦, 増田昇, 安部大就, 山本聡, 鈴木康介 (1995): 近隣居住者の街区公園の利用行動に関する研究. ランドスケープ研究 58(5), 217-220.
- 33) 高科豊 (1988): 河川景観評価因子と空間構成要素の関わりについて. 都市計画論文集 23, 185-223.
- 34) 高橋信之, 尾島俊雄 (2001): 蓋掛け河川の復元手法に関する調査研究. 日本建築学会計画系論文集 No. 547, pp. 81-86.
- 35) 田中隆, 日置佳之, 青木久宣 (1998): 生物の保全に関する住民の意向の地区間格差. ランドスケープ研究 61(5), 715-721.
- 36) 田村孝浩, 後藤章, 水谷正一 (1998): 小学校内に設けられた水辺の活用事例とその教育的効果に関する考察. 第12回環境情報科学論文集, pp. 209-214.
- 37) 土屋十圀, 中村良夫 (1993): 親水水路に見る流水形態と音環境の特性. 造園雑誌 56(5), 229-234.
- 38) 坪井塑太郎 (2003): 東京都江戸川区における河川・水路機能の変化と親水事業の展開に関する考察. ランドスケープ研究 67(1), 61-66.
- 39) 長久保貴志, 渡辺秀夫, 畔柳昭雄, 近藤健雄 (1994): 都市住民の意識からとらえた水辺空間の持つオープンスペース効果に関する研究—居住環境における水辺空間価値に関する研究 その1. 日本建築学会計画系論文集 No. 464, 215-223.
- 40) 中野賢治, 安部大就, 久保貞 (1983): 人間の反応行動に基づく水域環境評価. 造園雑誌 46(5), 129-134.
- 41) 中村彰吾, 小林昌毅, 高橋邦夫, 萩原良巳 (2000): 都市域の河川における水辺イメージに関する一考察. ランドスケープ研究 63(5), 803-808.
- 42) 中村彰吾, 小林昌毅, 高橋邦夫, 萩原良巳 (2001): 写真投影法による都市域河川の水辺デザイン情報抽出. ランドスケープ研究 64(5), 821-824.
- 43) 西名大作, 村川三郎 (1996): 被験者実験による河川景観の類型化と評価特性の分析. 日本建築学会計画系論文集 No. 485, 62-70.
- 44) 西名大作, 村川三郎 (1997): 国内外河川景観の評価特性の比較分析. 日本建築学会計画系論文集 No. 491, 57-65.
- 45) 西名大作, 村川三郎 (1997): 河川景観評価予測モデルの作成と適用性の検討. 日本建築学会計画系論文集 No. 494, 61-69.
- 46) 西名大作, 村川三郎, 大地啓子 (1999): 都市内河川空間における住民の利用行動特性の分析. 日本建築学会計画系論文集 No. 525, 75-82.

- 47) 平井住夫, 西村昂 (1999) : 河川、道路と一体となった帯状緑地を都市計画に位置付ける上での課題. 日本都市計画学会第 34 回学術研究発表会論文集, 835-840.
- 48) 藤崎健一郎, 島田久美子 (1990) : 東京都区部における都市公園開設史の量的解析. 造園雑誌 53(5), 79-84.
- 49) 藤田勝 (1993) : 高齢化社会における水辺空間活用について. 都市計画論文集. 28, 679-684.
- 50) 増田昇, 下村泰彦、安部大就 (1990) : 保存-利用ポテンシャル評価から捉えた「ため池」環境整備に関する研究. 造園雑誌 53(5), 257-262.
- 51) 増田昇, 岩崎慎, 下村泰彦, 安部大就 (1991) : 河川空間の整備効果に関する研究. 造園雑誌 54(5), 275-280.
- 52) 増田昇, 安部大就, 下村泰彦, 山本聡, 加我宏之 (1993) : 周辺景観を考慮した都市河川空間整備モデルに関する研究. 造園雑誌 56(5), 228-233.
- 53) 増田昇, 安部大就, 下村泰彦, 山本聡, 酒井毅 (1994) : 川らしさを創出する河川空間整備モデルに関する研究. 造園雑誌 57(5), 277-282.
- 54) 丸田頼一, 島田正文, 村上治, 伊藤寿子 (1990) : 多摩川における環境教育の現状と今後の課題. 造園雑誌 53(5), 299-304.
- 55) 村川三郎, 西名大作, 飯尾昭彦 (1988) : 都市内親水施設を対象とした距離圏域による住民の利用・評価の分析. 日本建築学会計画系論文報告集 第 389 号, 53-61.
- 56) 村川三郎, 西名大作, 植木雅浩 (1996) : 河川景観の画像特徴量と被験者注視点の関連. 日本建築学会計画系論文集 No. 479, 67-76.
- 57) 村川三郎, 西名大作, 上村嘉孝 (1998) : 河川環境の現況整備と修景整備案に対する住民の評価構造の分析. 日本建築学会計画系論文集 No. 513, 53-60.
- 58) 村川三郎, 西名大作, 植木雅浩, 横田幹郎 (1999) : 河川景観の画像特徴量と被験者の心理的評価構造の関連. 日本建築学会計画系論文集 No. 524, 53-60.
- 59) 村川三郎, 西名大作, 中野恵美, 大地啓子 (2000) : 河川環境に対する整備前後の住民評価の比較分析. 日本建築学会計画系論文集 No. 533, 37-44.
- 60) 村田義郎, 延藤安弘 (2000) : 参加型計画づくりにおける住民と行政の意識及び計画内容の変容過程についての考察. 日本都市計画学会第 35 回学術研究発表会論文集, 865-870.
- 61) 八十川淳, 高橋信之, 尾島俊雄 (1998) : 東京都区部における中小河川の廃止と転用実態に関する調査研究. 日本建築学会計画系論文集 No. 508, 21-27.
- 62) 矢田努, 仙田満, 國吉真哉 (1998) : 都市における噴水、滝等の人工的に整備された水辺空間の景観形成に関する研究. 都市計画論文集. 33, 739-744.
- 63) 山田一裕, 須藤隆一 (1997) : 住民による水辺環境の評価手法. 第 11 回環境情報科学論文集, 49-54.

- 64) 山本聡, 安部大就, 増田昇, 下村泰彦, 岡本隆志 (1995): 近隣居住者から見た「ため池」が保有する環境保全機能に関する研究. ランドスケープ研究 58(5), 257-260.
- 65) 山本聡, 下村泰彦, 紀田和巳 (1997): 人と自然との共生の視点から捉えた淀川河川公園の空間整備に関する研究. ランドスケープ研究 60(5), 671-674.
- 66) 雷芸, 蓑茂寿太郎 (1999): 足立区域の水路の変容と市街化の進展との関連についての研究. ランドスケープ研究 62(5), 733-736.
- 67) 李承恩, 盛岡通, 藤田荘 (1999): 都市域における水と緑のエコロジカルネットワークの形成とエコアップに関する研究. 第13回環境情報科学論文集.
- 68) 李東根, 内藤正明, 恒川篤史, 武内和彦, 森田恒幸, 中口毅博 (1992): 住民による環境評価の経時的変化とその要因. 造園雑誌 55(5), 331-336.
- 69) 渡辺達三, 村上暁信 (1999): 河川への関心, イメージ, 利用欲求, 整備に関する世論の動向について. 日本都市計画学会第34回学術研究発表会論文集, 535-540.
- 70) 渡辺秀俊, 畔柳昭雄, 長久保貴志 (1995): 都市内の水辺空間と居住環境評価の関連性に関する研究—居住環境における水辺空間価値に関する研究 その2. 日本建築学会計画系論文集 No. 468, pp. 199-206.
- 71) 渡辺秀俊, 畔柳昭雄 (1995): 都市住民のオープンスペース利用行動に見られる水辺空間の先行性に関する研究—居住環境における水辺空間価値に関する研究 その3. 日本建築学会計画系論文集 No. 471, pp. 203-212.

学位論文

- 72) 上山肇 (1995): 親水公園の都市計画的位置付けに関する研究—東京都江戸川区を中心事例として—.

論説・報告

- 73) 内山香 (1998): 都立公園の池の保全対策について. 都市公園 141, 104-114.
- 74) 辻信一 (1997): 阪神大震災復興まちづくりにおけるオープンスペース計画と住民参加の展開. ランドスケープ研究 60(3), 252-255.
- 75) 富松裕, 臼井文彦, 清元隆司 (1999): 都市公園の利用から見た東京の公園行政の動向. 都市公園 144, 73-76.
- 76) 中島宏 (2000): 東京都における公園緑地事業の展開. 公園緑地 61(3), 46-51.
- 77) 増田元邦, 前中久行 (2003): 「水系を基軸とした都市のランドスケープ計画」推進のための水系空間構造モデルの解析. ランドスケープ研究 67(2), 128-132.
- 78) 森幸久 (2000): ため池の再生について—中尾親水公園での試み—. 公園緑地 61(2), 67-71.

- 79) 特集・公共造園における設計監理のあり方. ランドスケープ研究 60(1), 9-35.
- 80) 平成9年度日本造園学会全国大会分科会報告 保全生物学とビオトープ計画その4
保全生物学とビオトープ計画に関する技術の共有化. ランドスケープ研究 61(3),
223-229.
- 81) 平成13年度日本造園学会全国大会分科会報告 公共性と造園デザイン - 「公園」を
成り立たせるもの-. ランドスケープ研究 65(3), 245-252.

書籍

- 82) 内山正雄, 平野侃三, 平井昌信, 蓑茂寿太郎, 金子忠一: 都市緑地の計画と設計. 彰
国社. 1987. pp197.
- 83) 國松孝男, 菅原正孝: 都市の水環境の創造. 技法堂出版. 1988. pp.
- 84) 畔柳昭雄, 渡邊秀俊: 都市の水辺と人間行動. 共立出版. 1999. pp.
- 85) 越沢明: 東京都市計画物語. 日本経済評論社. 1991. pp292.
- 86) 桜井善雄, 市川新, 土屋十囀 [監修] 身近な水環境研究会 [編]: 都市の中に生きた水
辺を. 信山社. 1996. pp282.
- 87) 佐藤昌: 日本公園緑地発達史 (上). 都市計画研究所. 1977. pp698. p175.
- 88) 佐藤昌: 日本公園緑地発達史 (下). 都市計画研究所. 1977. pp547.
- 89) シビック・ランドスケープ研究会 [編]: シビック・ランドスケープ 公共空間の景を
デザインする. 公害対策技術同友会. 1997. pp199.
- 90) 陣内秀信他: 水辺空間 -江戸から東京へ-. 鹿島出版会.
- 91) 鈴木理生: 江戸の都市計画. 三省堂. 1988.
- 92) 高橋理喜男, 井出久登, 渡辺達三, 亀山章, 勝野武彦, 興水肇: 造園学. 朝倉書店.
1996. pp304.
- 93) 田畑貞寿, 樋渡達也 [編]: 造園の事典. 朝倉書店. 1995. pp618.
- 94) 日本建築学会 [編]: よりよい環境創造のための環境心理調査手法入門, 技法堂出版.
2000. pp137. p16-29.
- 95) 日本建築学会 [編]: 建築・都市計画のためのモデル分析の手法. 井上書院. 1992. pp164.
- 96) 建設省都市計画局公園緑地課 [監修] 日本公園緑地境界 [編]: 改訂版造園施工管理技
術編. 日本公園緑地協会. 1994.
- 97) 藤原宣夫 [編著]: 都市に水辺をつくる. 技術書院. 1999. p12-17.
- 98) 丸田頼一: 都市緑化計画論. 丸善. 1994. pp.

行政資料

- 99) 総理府広報室: 月刊世論調査 平成12年3月号. 大蔵省印刷局. 2000.

- 100) 東京都：緑の東京計画－「水と緑がネットワークされた風格都市・東京」を目指して
－. 2001. pp122.
- 101) 東京都環境保全局水質保全部 [編]：東京都水環境保全計画. 1998. pp220.
- 102) 東京都都市計画局総合計画部都市整備室：東京都水循環マスタープラン－望ましい水
循環の形成を目指して－. 1999.
- 103) 東京都都市計画局地域計画部：東京都都市計画公園緑地等調書－23区(東京都市計画)
－.
- 104) 東京都建設局：公園調書平成12年4月1日現在.
- 105) 文京区：第35回文京の統計(平成14年). 2003.
- 106) 文京区土木部公園緑地課：文京区緑の基本計画. 1999.

本研究に関して発表を行った学術論文

今野智介, 村上暁信, 渡辺達三 (2003) 市街地における水辺とのふれあい行動について. ランドスケープ研究 66 (5), 739-744.

謝辞

本論文の作成ならびに研究のすべてにわたり、東京大学大学院農学生命科学研究科の渡辺達三教授にご指導いただきました。研究が難航する中、方向性を考えるためのヒントを適切に与えて下さり、終始励まし続けていただきました。

東京大学大学院新領域創成科学研究科の安形康助手には、常に厳しい意見を持ってご指導いただきました。また、東京工業大学大学院総合理工学研究科の村上暁信講師（元東京大学大学院新領域創成科学研究科助手）には、研究の進め方について親切なご指導をいただきました。

本論文の審査にあたりましては、東京大学大学院農学生命科学研究科の岸野洋久教授、武内和彦教授、恒川篤史助教授、加藤和弘助教授からご助言をいただきました。先生方の多方面からのご指摘により、論文の細部にわたり検討を加えることができました。

また、お忙しい中で本論文中の調査にご協力いただきました、東京都文京区立第一中学校、第五中学校、第九中学校、本郷台中学校の教職員ならびに生徒、保護者の皆様に深くお礼申し上げます。

最後に、多岐にわたりご協力いただいた東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学専攻自然環境形成学研究室の学生諸氏に感謝します。

すべての皆様方なくして、この論文の完成に漕ぎ着けることはなかったと思います。本当にありがとうございました。

資料

水辺の利用についての調査 回答用紙（裏面もあります） 生徒用

あなたと水辺の関わり合いについていくつもお答えください。よろしくお願ひします。

質問1

あなたは水辺(川や湖、海あるいは噴水や池などのある場所)とのふれあいに ついて、普段(今の季節だけでなく年間を通じて)どのように思っていますか。下の中から適切な番号に○をつけてください。

1. もっとふれあいたいと思っている
2. 今くらいの程度でよいと思っている
3. とくにふれあいたいとは思っていない

質問2

あなたは、自分の家の回りにおける水辺について、どのように思っていますか。下の中から適切な番号に○をつけてください。

1. 水とのふれあえるよい場がある
2. もっとよい水辺があればよいと思う
3. とくに思っていることはない

質問3

右ページからこのページの下の下にかけての表をご覧ください。
(1) あなたの通う中学校の周りに、右のページにのっているような公園、緑地、水辺などがあります。あなたはこれらの場所に行つたことがありますか、それぞれの場所について、一番よく当てる番号一つだけに○をつけてください。

(2) あなたは、二筆表の①以外の②以外の水辺(川や湖、海あるいは噴水や池などのある場所)などでも、「よく行く」、「ときどき行く」、「何回か行ったことがある」(番号1～7)に当てはまる)ところがありますか。①徒歩や自転車で行ける近距離にあるもの、②自動車や電車で行く遠い距離にあるもの、それぞれについて5ヶ所まで自由に選んで、「追加欄」(番号50～54、55～59)にその場所の名前を記入してください。地名、河川名、公園名、公園を、あるいは建物の名前などがよく分からないときは、おおよその場所や現場の様子でも結構です。そして、同じように当てはまる番号一つだけに○をつけてください。

追加欄

50		1	2	3	4	5	6	7	8	9
51		1	2	3	4	5	6	7	8	9
52		1	2	3	4	5	6	7	8	9
53		1	2	3	4	5	6	7	8	9
54		1	2	3	4	5	6	7	8	9
55		1	2	3	4	5	6	7	8	9
56		1	2	3	4	5	6	7	8	9
57		1	2	3	4	5	6	7	8	9
58		1	2	3	4	5	6	7	8	9
59		1	2	3	4	5	6	7	8	9

質問3の表です。別用紙の地図も参照してみてください。	公園の地図	よく行く			ときどき行く			何回か行ったことがある	ほとんど行かない	
		の時間通り	の時間通り	の時間通り	の時間通り	の時間通り	の時間通り			
1	神田川一葉橋～水蓮橋	1	2	3	4	5	6	7	8	9
2	神田川一水蓮橋～飯田橋	1	2	3	4	5	6	7	8	9
3	神田川一飯田橋～江戸川橋	1	2	3	4	5	6	7	8	9
4	東京大学構内	1	2	3	4	5	6	7	8	9
5	稲葉神社	1	2	3	4	5	6	7	8	9
6	小石川緑地	1	2	3	4	5	6	7	8	9
7	占車園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
8	六義園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
9	小石川後楽園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
10	久慈公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
11	竹早公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
12	小日向公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
13	江戸川公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
14	新江戸川公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
15	関口三丁目公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
16	関口台公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
17	新大塚公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
18	大塚公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
19	大塚仲町公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
20	大塚窪町公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
21	新大塚公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
22	窪町公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
23	千石公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
24	千石緑地	1	2	3	4	5	6	7	8	9
25	文京宮下公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
26	鷹野町公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
27	白山公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
28	健川公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
29	後楽公園(※後楽園とは別です)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
30	菅野児童遊園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
31	播磨坂さくら並木	1	2	3	4	5	6	7	8	9
32	江戸橋公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
33	南大塚からたち公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
34	南大塚公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
35	上野恩賜公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9

質問4 右のページの表をご覧ください。

質問1で、「よく行く」、「ときどき行く」、「何回か行ったことがある」(番号1～7)と答えた場所
で、あなたがどのようなことをするのかお聞きます。

(1)「一貫表にのっていた場所」と「自分で追加した場所」のそれぞれから、質問3で、「よく行く」、「ときどき行く」、「何回か行ったことがある」(番号1～7)と答えた場所を自由に3ヶ所ずつ選んで、場所の番号を書き込んでください。ただし、「自分で追加した場所」の方については、質問3で追加欄に書き足した方のみ行ってください。また、3ヶ所に満たない場合は、ある分だけで構いません。

(2)それぞれの場所について、以下のようにお答えください。

①もしもそこによく行く場合は、何回か行く人がいたら、連袂の中から番号で番号を記入してください。主に一人で行く場合は、何も書かなくて結構です。

②春夏秋冬の季節ごとに、自分がすることについて、「よくする」という場合は○(二重丸)を、「ときどきする」という場合は○(丸)を記入して下さい。「ほとんど、あるいは全くしない」ことには、何も印を付けなくてください。また、ほとんど行かない季節については、印を付けなくても結構です。

③その場所についてどう思うか、連袂の中から当てはまるものをも一つ選んで、番号を記入してください。

あなたの性別は？ (○をつけてください) 男 女

あなたのお住まいは？ 文京区 _____丁目

あなたは現在この場所に何年住んでいますか？ _____年

以上です。ご協力ありがとうございました。

この調査や水辺の環境について、何かご意見、ご感想などがございましたら、
ご自由にお書き下さい。

場所の番号 (質問3の表で使われている番号です)	よく一緒に行く人がいますか？		1人、2人、家族、3人、祖父母		4人から7人、その他(欄を書きください)		場所の番号
	○	○	○	○	○	○	
1 川や池、あるいは公園内の海など 水辺の風景を眺める							1
a 散歩や公園内の緑や花を眺める							
b リラックスしたり、ゆっくりと							
c 友達とおしゃべりしたり、一緒に遊んだりする							
d 水遊びをしたりする							
e スポーツ(ジョギングやサイクリングを含む)をしたり、遊具を使って遊ぶ							
f 草花の観察や昆虫採集、鳥釣りなどをする							
g イベント(祭りや花火、花見など)に参加する							
h 「自由記」							



豊島区

- ※ 以下の場所は、地図の範囲外にあります。
- 1 神田川-聖橋~水道橋
 - 2 神田川-水道橋~飯田橋
 - 4 東京大学構内
 - 5 根津神社
 - 8 六義園
 - 35 上野恩賜公園



資料 アンケート調査用紙：第一中（地図）

水辺の利用についての調査 回答用紙(裏面)もありません) 生 使 用

あなたと水辺の間わり合いについていくつをお試ねします。よろしくお願いたします。

質問1

あなたは水辺(川や湖、池、溝、流るいは噴水や池などのある場所)とのふれあいについて、自分(今の季節だけでなく年間を通じて)どのように思っていますか。下の中から二つだけ選んで、番号に○をつけてください。

1. もっとふれたいと思っています
2. 今の程度の程度でよいと思っています
3. とくにふれたいとは思っていません

質問2

あなたは、自分の家の回りには水辺について、どのように思っていますか。下の中から二つだけ選んで、番号に○をつけてください。

1. 水とのふれあえるよい場所がある
2. もっとよい水辺があればよいと思う
3. とくに思っていることはない

質問3 右ページからこのページの下にかけての書き方を参考にしてください。

(1) あなたの通う中学校の周りには、右のページにのっているような公園、緑地、水辺などがあります。あなたはこれらの場所に行つたことがありますか、それぞれの場合について、一番よく当てはまる番号一つだけに○をつけてください。

(2) あなたは、二歳以上の兄弟の兄弟(川や湖、池、溝、流るいは噴水や池などのある場所)で、「よく行く」、「ときどき行く」、「何回か行つたことがある」(番号)1~7に当てはまる)ところがありますか。①徒歩や自転車で行ける近い距離にあるもの、②自動車や電車で行く遠い距離にあるもの、それぞれについて5ヶ所まで自由に選んで、「追加欄」(番号50~54、55~59)にその場所の名称を記入してください。地名、河川名、公園名、あるいは建物の名前などよく分からないときは、おおよその場所や現場の様子でも結構です。そして、同じように当てはまる番号一つだけに○をつけてください。

追加欄

50	徒歩	1	2	3	4	5	6	7	8	9
51	自転車	1	2	3	4	5	6	7	8	9
52	自動車	1	2	3	4	5	6	7	8	9
53	電車	1	2	3	4	5	6	7	8	9
54	バス	1	2	3	4	5	6	7	8	9
55	その他	1	2	3	4	5	6	7	8	9
56	その他	1	2	3	4	5	6	7	8	9
57	その他	1	2	3	4	5	6	7	8	9
58	その他	1	2	3	4	5	6	7	8	9
59	その他	1	2	3	4	5	6	7	8	9

質問3の表です。別用紙の地図も参照してみてください。	よく行く の時間 通車 徒歩 自転車 バス 電車	上ぎぎ行く の時間 通車 徒歩 自転車 バス 電車					何 回 か 行 く た い	ほ と ん ど 行 か な い	知 ら な い	
		1	2	3	4	5				6
1	神田川一帯(橋~水辺)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
2	神田川一帯(橋~水辺)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
3	神田川一帯(橋~江戸川)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
4	東大寺境内	1	2	3	4	5	6	7	8	9
5	橋本神社	1	2	3	4	5	6	7	8	9
6	小石川植物園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
7	占部園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
8	六義園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
9	小石川植物園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
10	小日向公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
11	江戸川公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
12	新江戸川公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
13	関口三丁目公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
14	関口台公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
15	新大塚公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
16	大塚公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
17	大塚神町公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
18	大塚深町公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
19	豊西の森公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
20	深町公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
21	竹見公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
22	久堅公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
23	池袋公園(袋井公園とは別です)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
24	池袋公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
25	春日児童遊園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
26	春日児童遊園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
27	大塚公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
28	池袋公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
29	池袋公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
30	池袋公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
31	池袋公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
32	池袋公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
33	池袋公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
34	池袋公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
35	池袋公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
36	池袋公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
37	池袋公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
38	池袋公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
39	池袋公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
40	池袋公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9

質問4

右のページの裏をご覧ください。
 質問1で、「よく行く」、「ときどき行く」、「何回か行ったことがある」(番号1~7)と答えた場所
 で、あなたがどのようなことをするのをお聞かせします。

(1)「一覧表にのっている場所」と「自分で追加した場所」のそれぞれから、質問1で、「よく行く」、「ときどき行く」、「何回か行ったことがある」(番号1~7)と答えた場所に自由に行か所ずつ
 通んで、場所の番号を書き込んでください。ただし、「自分で追加した場所」の方については、
 質問1で追加欄に書き足した方のみ行ってください。また、カギ所に満たない場合は、ある分だけ
 で構いません。

(2)それぞれの場所について、以下のようにお答えください。

- ①もしもそこによく一緒にに行く人がいましたら、選択肢の中から選んで番号を記入してください。
 主に一人で行く場合は、何も書かなくて結構です。
- ②夏祭りの要領としては、自分がすることについて、「よく行く」という場合は◎(二重丸)を、
 「ときどき行く」という場合は○(丸)を記入して下さい。「ほとんど、あるいは全くしないことには、
 何も印を付けないでください。また、ほとんど行かない季節についても、印を付けないでも結構
 です。
- ③その場所についてどう思うか、選択肢の中から当てはまるもの一つを選んで、番号を記入して
 ください。

あなたの性別は？(○をつけてください) 男 女
 あなたのお住まいは？ 文京区 _____ 丁目
 あなたは現在の場所に何年住んでいますか？ _____ 年

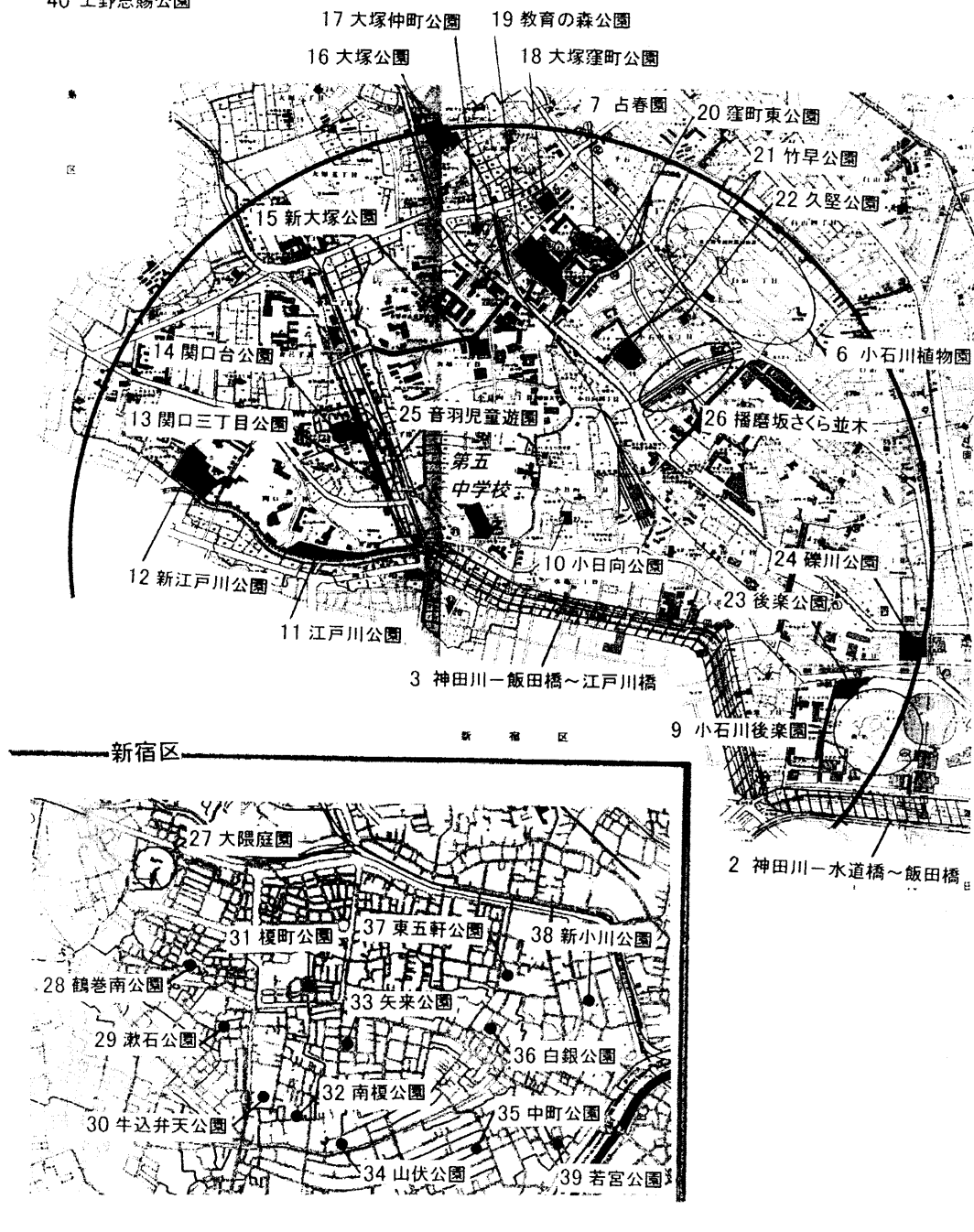
以上です。ご協力ありがとうございます。

この調査や水辺の環境について、何かご意見、ご感想などがございましたら、
 ご自由にお書き下さい。

場所の番号 (質問3の裏で使われている番号です)	よく一緒に行く人がいますか？				夏祭りにのって行った場所				自分で追加した場所		
	1.友人 2.兄弟姉妹 3.両親・祖父母 4.家族ら 5.その他(欄外書きください)	a	b	c	d	e	f	g	h	i	その他
川や池、あるいは公園内の海など 水辺の風景を眺める											
散歩道や公園内の緑や花を眺める											
リラックしたり、ゆっくりと 休む											
友達とおしゃべりしたり、一 輪に遊んだりする											
水に浸れたり、水の中に入って 水遊びをしたりする											
スロープ(ジョボワ)やサイク リングを楽しむ)をしたり、遊具 を使って遊ぶ)											
草花の鑑賞や昆虫採集、鳥釣り などをする											
イベント(祭りや花火、花見な ど)に参加する 「自由席」											
その場所についてどう思いますか？											

※ 以下の場所は、地図の範囲外にあります。

- 1 神田川-聖橋~水道橋
- 4 東京大学構内
- 5 根津神社
- 8 六義園
- 40 上野恩賜公園



資料 アンケート調査用紙：第五中（地図）

水辺の利用についての調査 回答用紙(裏面もあり) 生徒用

あなたと水辺の関わり合いについていくつかお訊ねします。よろしくお願ひします。

質問1

あなたは水辺(川や湖、海あるいは噴水や池などのある場所)とのふれあいに、普段(今の季節だけでなく年間を通じて)どのようになっていますか、下の中からこのだけ選んで、番号に○をつけてください。

1. もっとふれあいたいと思っている
2. 今の程度のよいと思っている
3. とくにふれあいたいとは思っていない

質問2

あなたは、自分の家の回りにある水辺について、どのように思っていますか、下の中からこのだけ選んで、番号に○をつけてください。

1. 水とのふれあえるよい場がある
2. もっとよい水辺があればよいと思う
3. とくに思っていることはない

質問3

カテゴリーからこのページの下にかけての表をご覧ください。
(1) あなたの通う中学校の周りには、右のページにのっているような公園、緑地、水辺などがあります。あなたはこれらの場所に行ったことがありますか、それぞれの場所について、一番よく当てはまる番号一つだけに○をつけてください。

(2) あなたは、二重蒸気についでいるものの見外の水辺(川や湖、海あるいは噴水や池などのある場所などでも)で、「よく行く」、「ときどき行く」、「何回か行ったことがある」(番号1～7に当てはまる)ところがありますか、①徒歩や自転車で行ける近い距離にあるもの、②自動車や電車で行く遠い距離にあるもの、それぞれについて5ヶ所まで自由に選んで、「追加欄」(番号50～54、55～59)にその場所の名前を記入してください。地名、河川名、公園名、あるいは建物の名前などがよく分からないときは、おおよその場所や現場の様子でも結構です。そして、同じように当てはまる番号一つだけに○をつけてください。

追加欄

50		1	2	3	4	5	6	7	8	9
51		1	2	3	4	5	6	7	8	9
52		1	2	3	4	5	6	7	8	9
53		1	2	3	4	5	6	7	8	9
54		1	2	3	4	5	6	7	8	9
55		1	2	3	4	5	6	7	8	9
56		1	2	3	4	5	6	7	8	9
57		1	2	3	4	5	6	7	8	9
58		1	2	3	4	5	6	7	8	9
59		1	2	3	4	5	6	7	8	9

質問3の表です。別用紙の地図も参照してください。	よく行く			ときどき行く			何回か行った	ほとんど行かない	知らない	
	の時間通り来ると立ち寄りやすい場所	の時間通り来ると立ち寄りやすい場所	の時間通り来ると立ち寄りやすい場所	の時間通り来ると立ち寄りやすい場所	の時間通り来ると立ち寄りやすい場所	の時間通り来ると立ち寄りやすい場所				
1	神田川一聖橋～水道橋	1	2	3	4	5	6	7	8	9
2	神田川一水道橋～飯田橋	1	2	3	4	5	6	7	8	9
3	神田川一飯田橋～江戸川橋	1	2	3	4	5	6	7	8	9
4	東京大学構内	1	2	3	4	5	6	7	8	9
5	根津神社	1	2	3	4	5	6	7	8	9
6	小石川橋脚	1	2	3	4	5	6	7	8	9
7	占館	1	2	3	4	5	6	7	8	9
8	六重橋	1	2	3	4	5	6	7	8	9
9	小石川橋脚	1	2	3	4	5	6	7	8	9
10	須藤公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
11	駒込林町公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
12	千駄木公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
13	駒込公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
14	駒込公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
15	神明橋電車線跡公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
16	神明公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
17	神明北公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
18	富士前公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
19	六義公園(※六義園とは別です)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
20	鷹巣町公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
21	白山公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
22	文京宮下公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
23	千石緑地	1	2	3	4	5	6	7	8	9
24	千石公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
25	登野原公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
26	西日暮里公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
27	旧古河庭園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
28	田崎台公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
29	田崎公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
30	東中野公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
31	西中野公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
32	駒込東公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
33	桑井吉野程記念公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
34	駒込公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
35	江戸橋公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
36	上野恩賜公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9

質問4

右のページの裏をご確認ください。
質問1で、「よく行く」「ときどき行く」「何回か行ったことがある」(番号1~7)と答えた場所
で、あなたがどのようなお答えをしますか。
(1)「一貫表にのっていた場所」と「自分で追加した場所」のそれぞれから、質問3で、「よく行く」「ときどき行く」「何回か行ったことがある」(番号1~7)と答えた場所を自由に3ヶ所ずつ
選んで、場所の番号を書き込んでください。ただし、「自分で追加した場所」の方については、
質問3で追加欄に書き足した方のみ行ってください。また、3ヶ所に満たない場合は、ある分だけ
请填写いせん。

- (2) それぞれの場所について、以下のようにお答えください。
 - ①もしもそこによく一緒にに行く人がいたら、選択肢の中から選んで番号を記入してください。
主に一人で行く場合は、何も書かなくて結構です。
 - ②意見交換の頻度と、自分がすることについて、「よく行く」という場合は◎(二重丸)を、「
ときどき行く」という場合は○(丸)を記入して下さい。「ほとんど、あるいは全くしない」ことに
は、何も印を付けないでください。また、ほとんど行かない季節についても、印を付けなくても結
構です。
 - ③その場所についてどう思うか、選択肢の中から当てはまるものを一つ選んで、番号を記入して
ください。

あなたの性別は？ (○をつけてください) 男 女

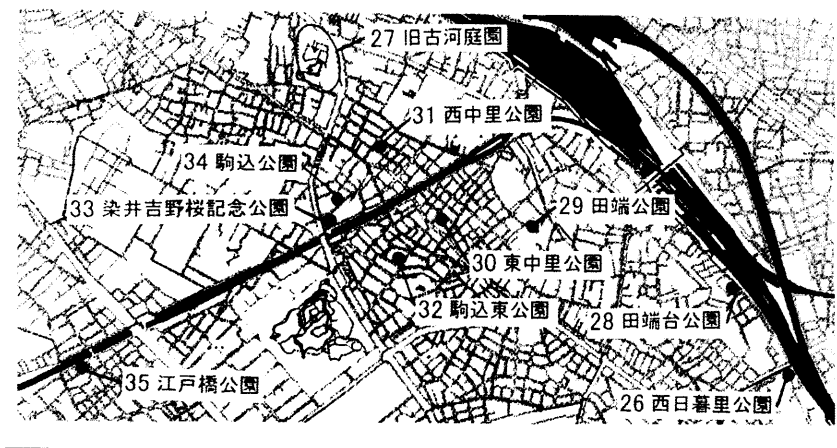
あなたのお住まいは？ 東京都 _____ 丁目

あなたは現在の場所に何年住んでいますか？ _____ 年

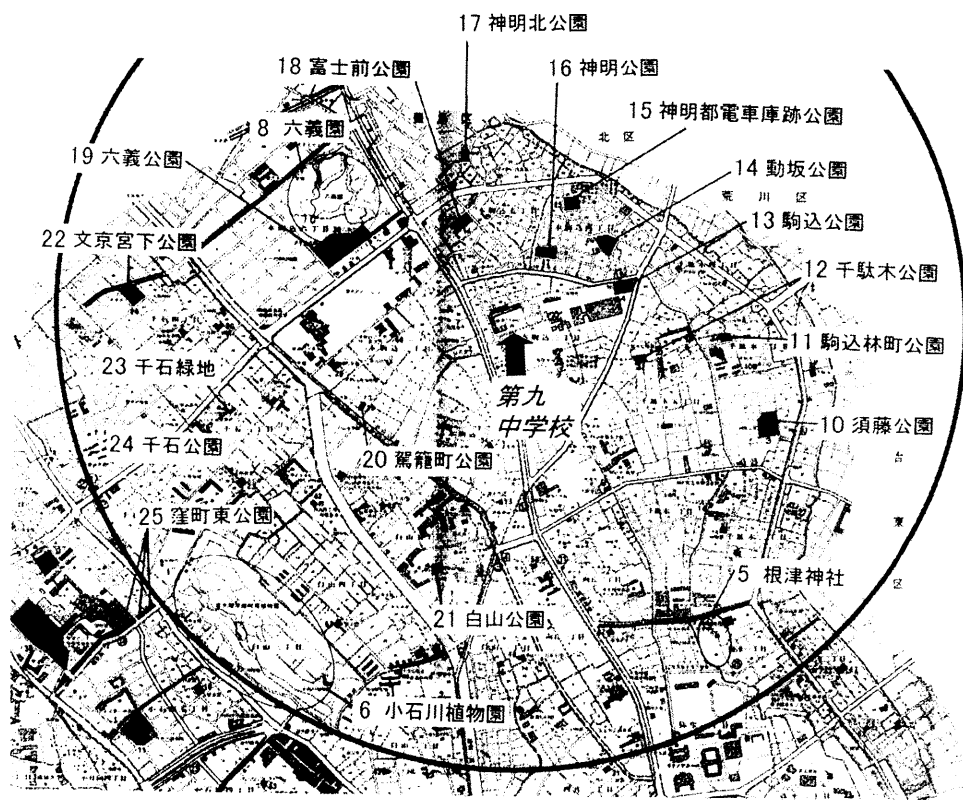
以上です。ご協力ありがとうございます。

この調査や水辺の環境について、何かご意見、ご感想などがございましたら、
ご自由にお書き下さい。

場所の番号 (質問3の表で使われている番号です)	よく一緒に行く人がいますか？ 1 友人 2 兄弟姉妹 3 親、祖父母 4 家族それぞれ 5 その他(欄か書きください)		川や池、あるいは公園内の海など の水辺の風景を眺める		散歩道や公園内の緑や花を眺め る		リラックスしたり、ゆったりと 休む		友達とおしゃべりしたり、一 緒に遊んだりする		水に触れたり、水の中に入っ て水遊びをしたりする		スロープ(ジョボト)やサイク リング(歩車)をしたり、遊具 を使ったり遊ぶ		草花の観察や昆虫採集、鳥釣り などをする		イベント(祭りや花火、花見な ど)に参加する 【自由記述】		その場所についてどう思いますか？ 1 良い場所だと思う 2 多少し悪くはないがよいと思う点がある 3 全く思っていない	
	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎				
自分で追加した場所																				
一貫表にのっていた場所																				
記入欄	6																			



北区・豊島区・荒川区



- ※ 以下の場所は、地図の範囲外にあります。
- | | |
|----------------|-----------|
| 1 神田川-聖橋-水道橋 | 7 占春園 |
| 2 神田川-水道橋-飯田橋 | 9 小石川後楽園 |
| 3 神田川-飯田橋-江戸川橋 | 36 上野恩賜公園 |
| 4 東京大学構内 | |

資料 アンケート調査用紙：第九中（地図）

水辺の利用についての調査 回答用紙(裏面もあります) 生 使 用

あなたと水辺の関わり合いについていくつもお知らせします。よろしく願います。

質問1

あなたは水辺(川や湖、海あるいは噴水や池などのある場所)とのふれあいについて、普段(今の季節だけでなく年間を通じて)どのように思っていますか。下の中から二つだけ選んで、番号に○をつけてください。

1. もっとふれあいたいと思っている
2. 今の程度のままでよいと思っている
3. とくにふれあいたいとは思っていない

質問2

あなたは、自分の家の回りがある水辺について、どのように思っていますか。下の中から二つだけ選んで、番号に○をつけてください。

1. 水とのふれあえるよい場がある
2. もっとよい水辺があればよいと思う
3. とくに思っていることはない

質問3

右ページからこのページの下にかけての裏をご覧ください。
(1)あなたの通う中学校の周りには、右のページにのっているような公園、緑地、水辺などがあります。あなたはこれらの場所に行つたことがありますか。それぞれ場所について、一番よく当てる番号一つだけに○をつけてください。

(2)あなたは、二覧表にのっているもの以外の水辺(川や湖、海あるいは噴水や池などのある場所)ならどこでも、「よく行く」、「ときどき行く」、「何回か行ったことがある」(番号1~7に当てはまる)ところがありますか。①徒歩や自転車で行ける近い距離にあるもの、②自動車や電車で行く遠い距離にあるもの、それぞれについて8ヶ所まで自由に選んで、「追加欄」(番号50~54、55~59)にその場所の名前を記入してください。地名、河川名、公園名、あるいは建物の名前などがよく分からないときは、おおよその場所や現場の様子でも結構です。そして、同じように当てはまる番号一つだけに○をつけてください。

※追加欄の記入は、必ず裏面にお願いします。

追 加 欄

50	徒歩	1	2	3	4	5	6	7	8	9
51	自転車	1	2	3	4	5	6	7	8	9
52	自動車	1	2	3	4	5	6	7	8	9
53	電車	1	2	3	4	5	6	7	8	9
54	バス	1	2	3	4	5	6	7	8	9
55	自転車	1	2	3	4	5	6	7	8	9
56	自動車	1	2	3	4	5	6	7	8	9
57	電車	1	2	3	4	5	6	7	8	9
58	バス	1	2	3	4	5	6	7	8	9
59	その他	1	2	3	4	5	6	7	8	9

質問3の裏です、別冊紙の地図も参照してみてください。	よく行く		ときどき行く		ほとんど行かない		知らない			
	の時間通り(動)にすなわると外	か多やけるほど	の時間通り(動)にすなわると外	か多やけるほど	一回かあるた	ほとんど行かない				
1	神田川一級橋~水道橋	1	2	3	4	5	6	7	8	9
2	神田川一水道橋~飯田橋	1	2	3	4	5	6	7	8	9
3	神田川一飯田橋~江戸川橋	1	2	3	4	5	6	7	8	9
4	東京大学構内	1	2	3	4	5	6	7	8	9
5	桜葉神社	1	2	3	4	5	6	7	8	9
6	小石川精神園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
7	占屋園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
8	六義園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
9	小石川休養園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
10	切通公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
11	新花公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
12	お茶の水公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
13	本郷給水部公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
14	元町公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
15	清和公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
16	西片公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
17	藤川公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
18	後楽公園(※後楽園とは別です)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
19	上野恩賜公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
20	宮本公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
21	秀林公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
22	練成公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
23	藤華公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
24	淡路公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9
25	西神田公園	1	2	3	4	5	6	7	8	9

質問4

右のページの表をご覧ください。

質問1で「よく行く」「ときどき行く」「何回か行ったことがある」「番号1〜7」を答えた場所
で、あなたがどのようなことをするのをお願します。

(1)「一覧表にのっていた場所」と「自分で追加した場所」のそれぞれから、質問3で「よく行く」「ときどき行く」「何回か行ったことがある」「番号1〜7」と答えた場所を自由に3箇所ずつ選んで、場所の番号を書き込んでください。ただし、「自分で追加した場所」の方については、質問3で追加欄に書き足した方のみ行ってください。また、3ヶ所に属しない場合は、ある分だけで構いません。

(2)それぞれの場所について、以下のようにお答えください。

①もしもそこによく一緒にに行く人がいたら、選抜隊の中から選んで番号を記入してください。主に一人で行く場合は、何も書かなくて結構です。

②投票票の裏面には、「よく行く」という場合は○(二重丸)を、「ときどき行く」という場合は○(丸)を記入して下さい。「ほとんど、あるいは全くしない」という場合は、何も印を付けないでください。また、「ほとんど行かない季節」という場合、印を付けないで結構です。

③その場所についてどう思うか、選抜隊の中から当てはまるもの一つを選んで、番号を記入してください。

あなたの性別は？(○をつけてください) 男 女

あなたのお住まいは？ 文京区 _____ 丁目

あなたは現在の場所に住んでいますか？ _____ 年

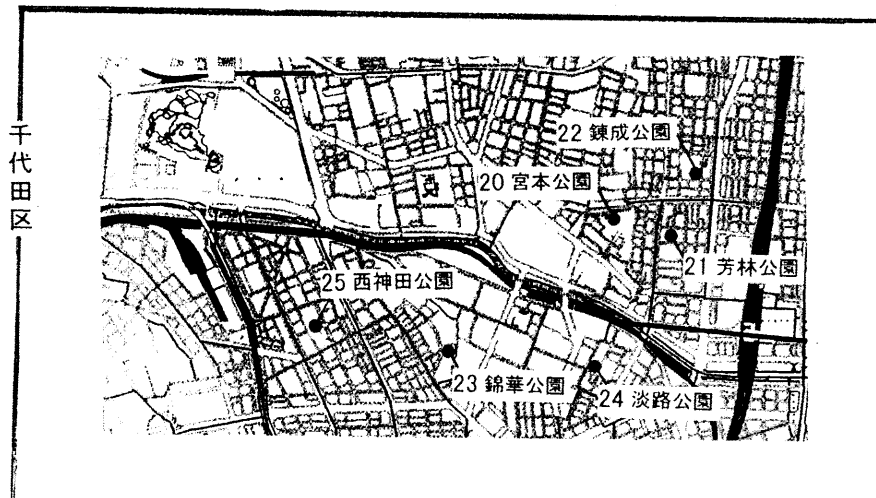
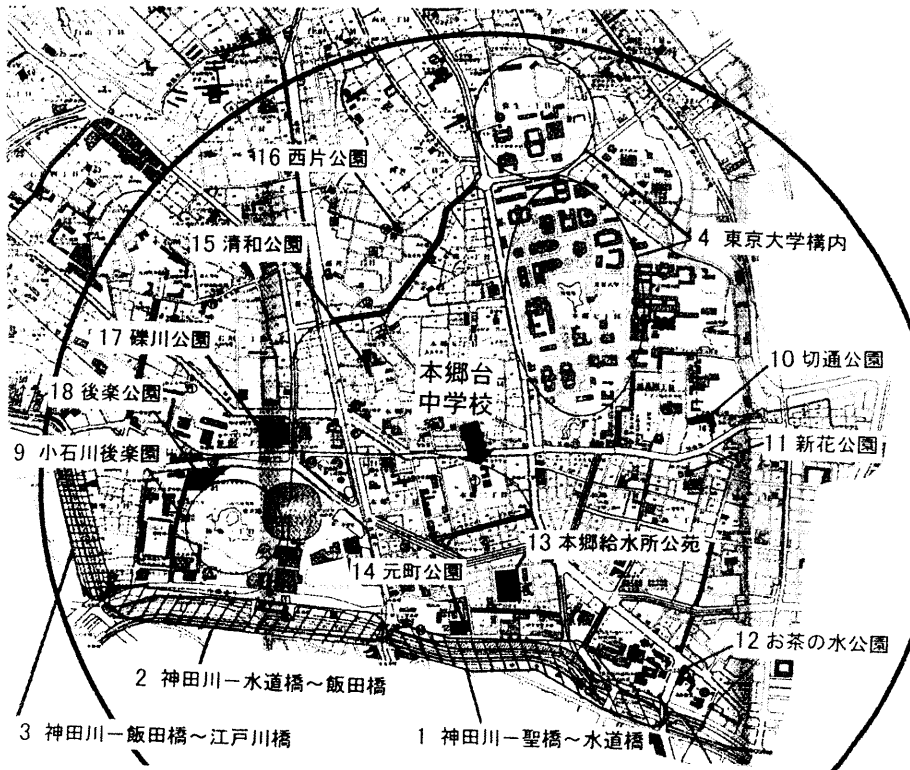
以上です。ご協力ありがとうございました。

この調査や水辺の環境について、何かご意見、ご感想などがありましたら、
ご自由にお書き下さい。

場所の番号 (質問3の表で使われている番号です) よく一緒に行く人がありますか？ 1 友人 2 兄弟姉妹 3 妻、相手 4 家族 5 その他(理由が書きたい)	川や池、あるいは公園内の水辺の風景を眺める							散歩道や公園内緑や花を眺める							ピクニックしたり、ちくちくと楽しむ							友達とおしゃべりしたり、一緒に遊んだりする							水遊びをしたりする							水泳(ジュニアやサクラブリック等)をしたり、遊具などをする							イェンテ(祭りや花火、花見など)に参加する							「田舎」																				
	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7																												
場所の番号	香夏 秋を香夏 秋を香夏 秋を香夏 秋を香夏 秋を香夏 秋を香夏 秋を香夏							香夏 秋を香夏 秋を香夏 秋を香夏 秋を香夏 秋を香夏 秋を香夏							香夏 秋を香夏 秋を香夏 秋を香夏 秋を香夏 秋を香夏 秋を香夏							香夏 秋を香夏 秋を香夏 秋を香夏 秋を香夏 秋を香夏 秋を香夏							香夏 秋を香夏 秋を香夏 秋を香夏 秋を香夏 秋を香夏 秋を香夏							香夏 秋を香夏 秋を香夏 秋を香夏 秋を香夏 秋を香夏 秋を香夏							香夏 秋を香夏 秋を香夏 秋を香夏 秋を香夏 秋を香夏 秋を香夏							香夏 秋を香夏 秋を香夏 秋を香夏 秋を香夏 秋を香夏 秋を香夏																				
自分で追加した場所																																																																						
記入例	1							1							1							1							1							1							1							1							1							1						

※ 以下の場所は、地図の範囲外にあります。

- 5 根津神社
- 6 小石川植物園
- 7 占春園
- 8 六義園
- 19 上野恩賜公園



資料 アンケート調査用紙：本郷台中（地図）

文京区立第一中学校 保護者様

文京区の水辺に関する調査 回答用紙

■あなたの性別をお答えください。

女性

男性

■あなたの家の住所をお書きください。

_____区 _____(町) _____丁目

■現在あなたの家の近くには、よい水辺があると思いますか？

思う 少し思う どちらでもない あまり思わない 思わない

■現在あなたは、水辺とふれあう機会が自分に十分にあると思いますか？

思う 少し思う どちらでもない あまり思わない 思わない

<映像を見終わった後にお書きください>
今日の話あるいは調査について、感想がありましたら
また、自分の水辺にまつわる思い出などがありましたら
ご自由にお書きください。

調査にご協力いただき、まことにありがとうございました。

ここに行ったことがある場合は
○を記入してください。

1

a	水が	きれいだ	やや きれい	どちらでもない	やや きたない	きたない
b	水の流れや動きが	おもしろい	少し おもしろい	どちらでもない	少し つまらない	つまらない
c	水が涼しそうに	感じる	少し 感じる	どちらでもない	あまり 感じない	感じない
d	水に触ってみたい	なる	少し なる	どちらでもない	あまり ならない	ならない
e	この水辺でリラックスが	できる	少し できる	どちらでもない	あまり できない	できない
f	この水辺が	好きだ	やや 好きだ	どちらでもない	やや きらいだ	きらいだ
g	水の音が心地よく	きこえる	やや きこえる	どちらでもない	あまり きこえない	きこえない
h	この水辺は	広い	少し 広い	どちらでもない	少し せまい	せまい
i	水辺の雰囲気	暗い	少し 暗い	どちらでもない	少し 明るい	明るい
j	きちんと整備が	されていそう	少し されていそう	どちらでもない	あまり されてなさそう	されてなさそう
k	水辺が危なそうに	感じる	少し 感じる	どちらでもない	あまり 感じない	感じない
l	この水辺は	人工的な 感じがする	やや人工的な 感じがする	どちらでもない	やや自然的な 感じがする	自然的な 感じがする
m	水辺の生物が	いそう	少し いそう	どちらでもない	あまり いなさそう	いなさそう
n	かっこうよい感じが	する	やや する	どちらでもない	あまり しない	しない
o	水の近くまで	行きやすそう	やや 行きやすそう	どちらでもない	やや 行きにくそう	行きにくそう
p	水辺で休憩するのに	良い場所だ	やや 良い場所だ	どちらでもない	やや 良くない場所だ	良くない場所だ
q	水辺の風景が	きれいだ	やや きれいだ	どちらでもない	あまり きれいでない	きれいでない
r	この水辺が家の近くにあればよいと	思う	やや 思う	どちらでもない	あまり 思わない	思わない
s	水辺の動植物とふれあうのに	良い場所だ	やや 良い場所だ	どちらでもない	やや 良くない場所だ	良くない場所だ

資料 景観評価調査用紙 ※全 23 地点について同様の用紙を使用